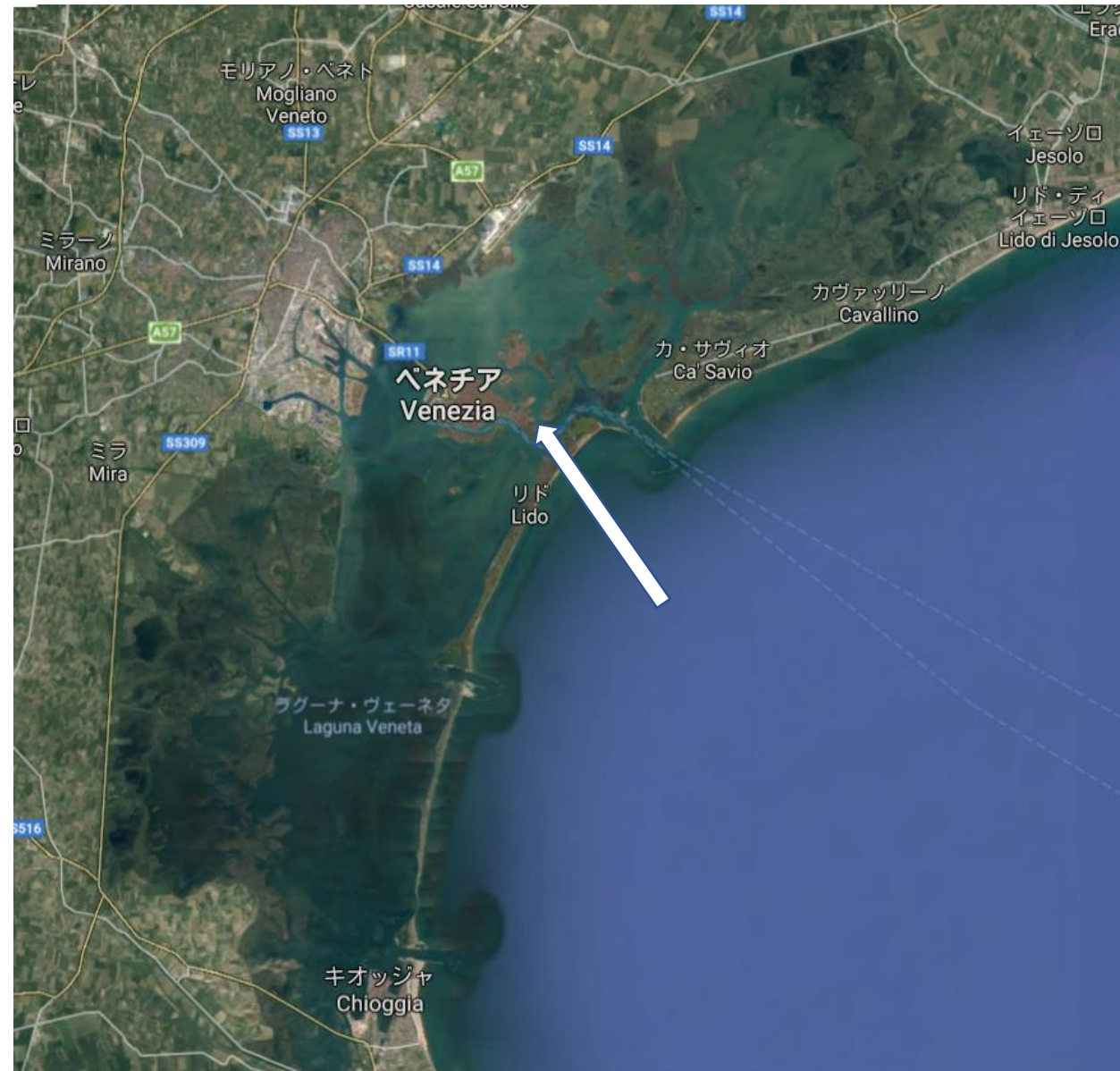
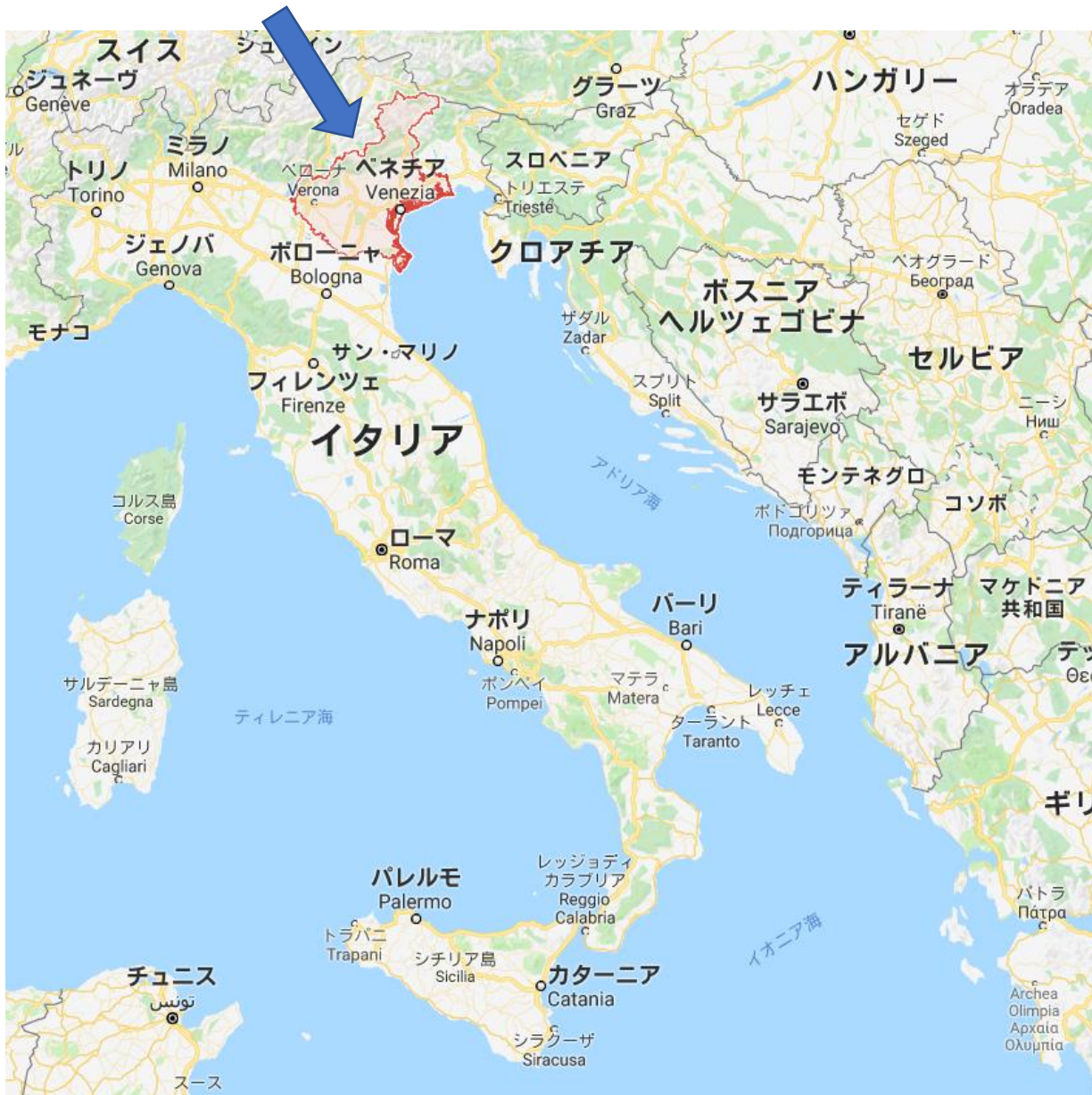


東地中海の経済覇権を800年  
維持したヴェネツィアから  
今の日本を考える

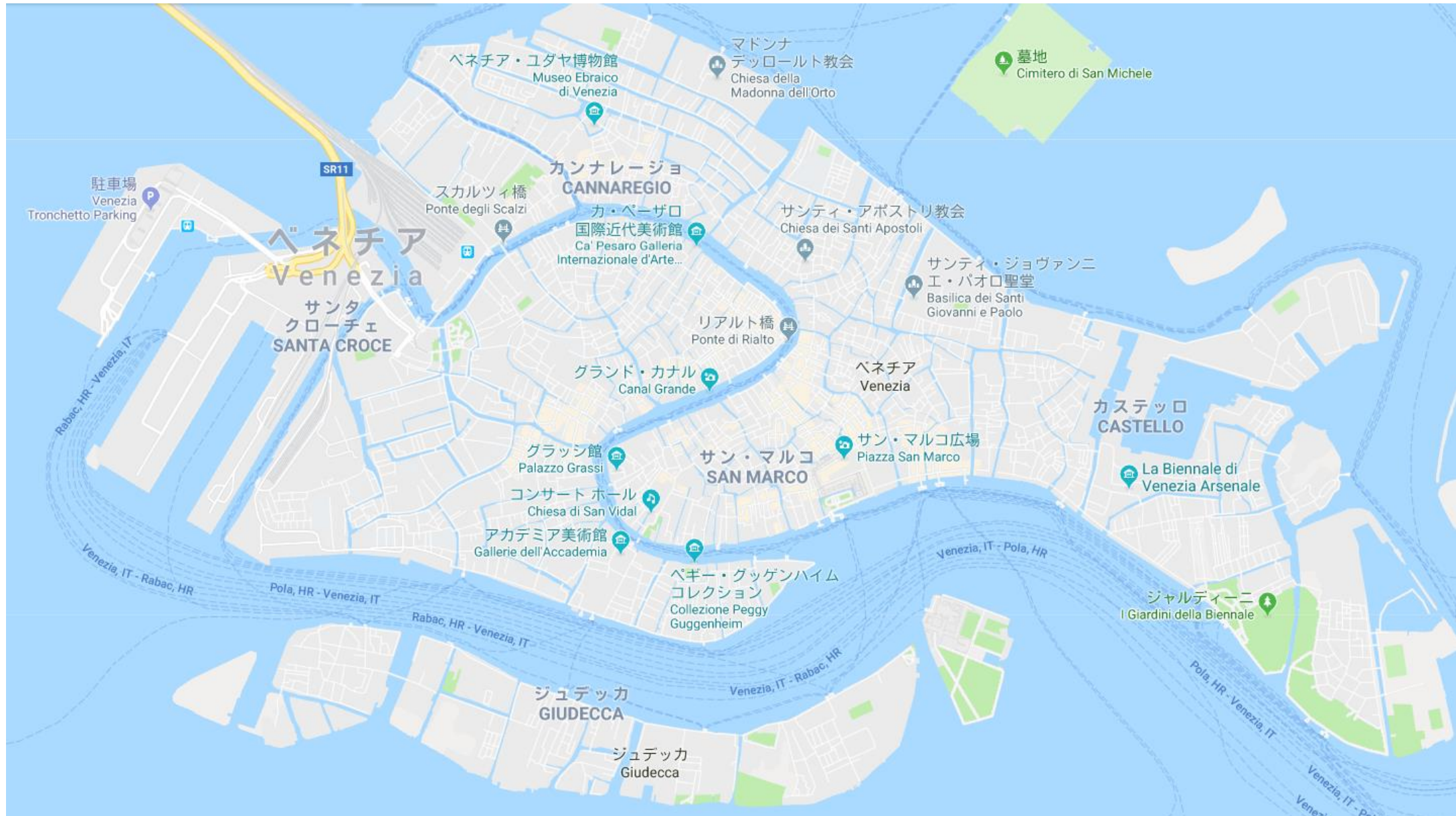
平成30年10月2日

大柴隆士

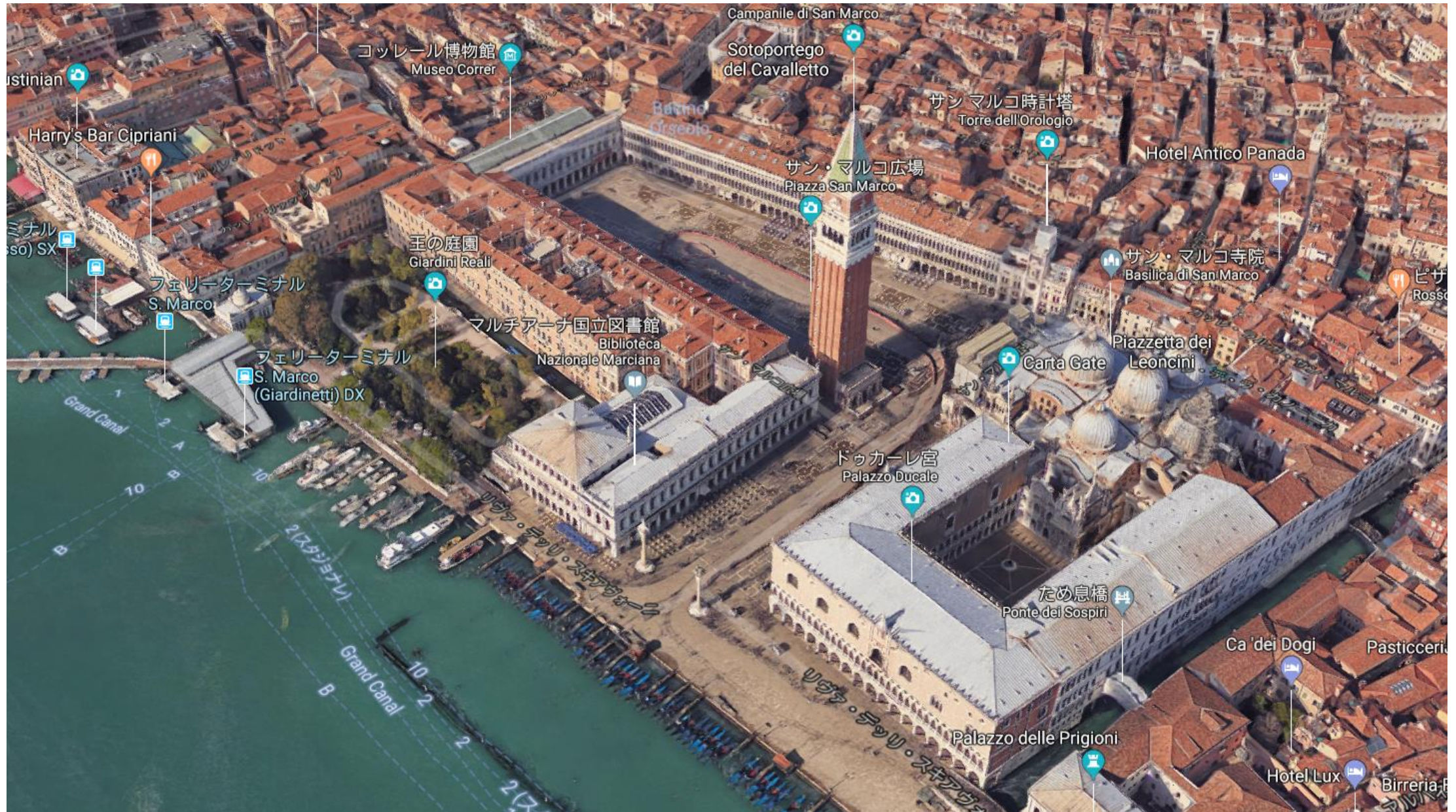
# ヴェネツィア (アドリア海の奥、ヴェネト州都、ラグーナ潟の中)



# 本島 (長さ 4 Km \* 幅 2 ~ 0.5 Km 人口 9 万人弱 世界遺産)



# 政治の中心地（元首宮殿とサンマルコ寺院）



# 経済の中心地（リアルト橋）

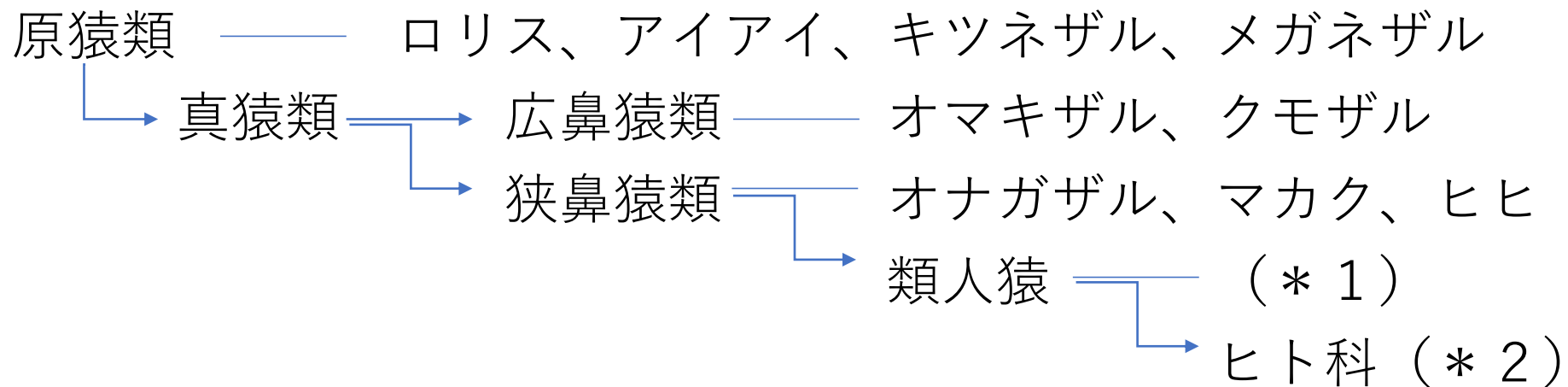


# 軍事の中心地（国営造船所 アルセナーレ）



# 先ずは日本から ホモサピエンス 日本へ

霊長類 (6,500万年前)



\* 1 ~ テナガザル、オランウータン、ゴリラ、チンパンジー、ボノボ

\* 2 ~ アウストロラピテクス、ホモハビリス、ホモエレクトウス、ホモサピエンス  
(400万年前) (200万年前) (20万年前)

霊長類の中でホモサピエンスだけ毛が無い。理由は～～

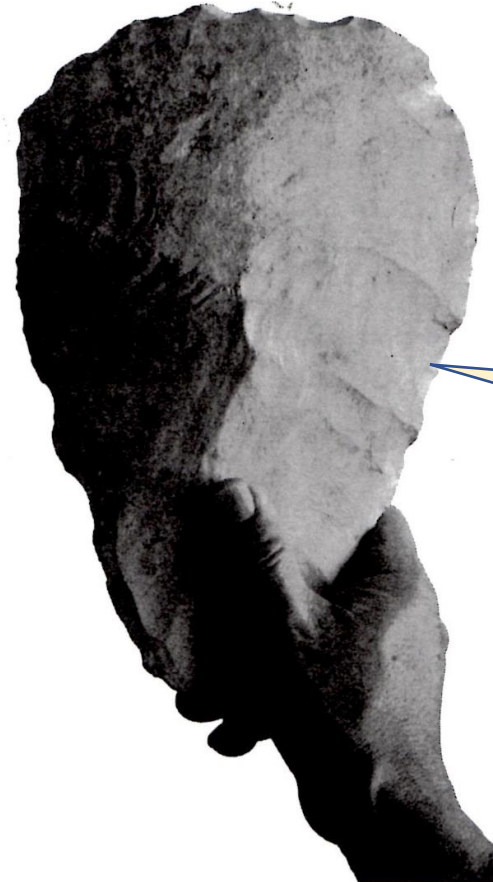
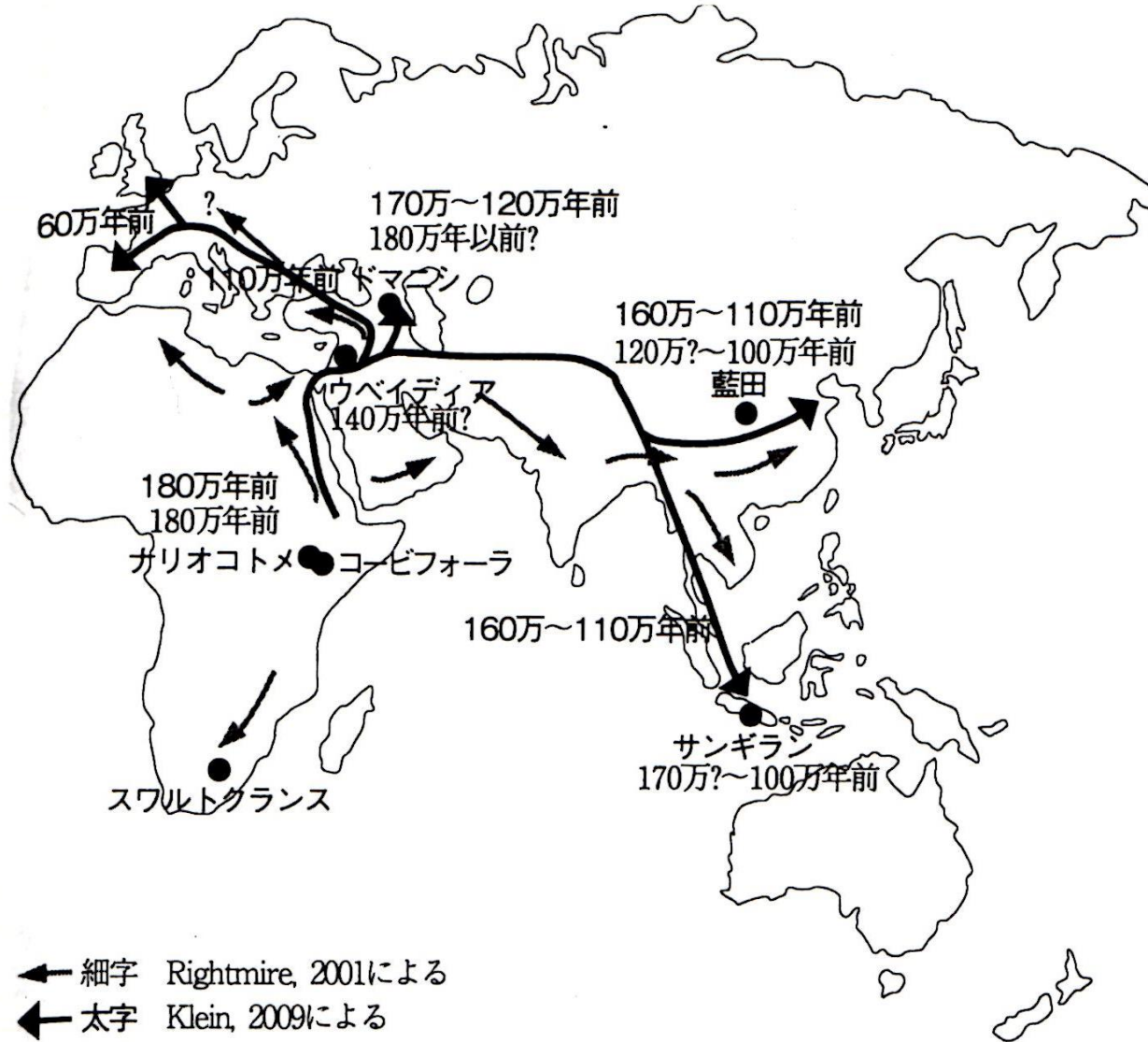
①ダーウィン説：性淘汰。裸が魅力的

②水辺生活説：体力劣りニッチの水辺で魚貝類収集／クジラ、イルカ、カバ

# ホモエレクトウス

## 世界拡散

- 180万年前 出アフリカ
- 脳容積、体格はホモサピエンスの1割増し  
ハンドアックスを武器に世界の王獣だった



ハンドアックス  
長さ 40 cm  
重さ 3 kg

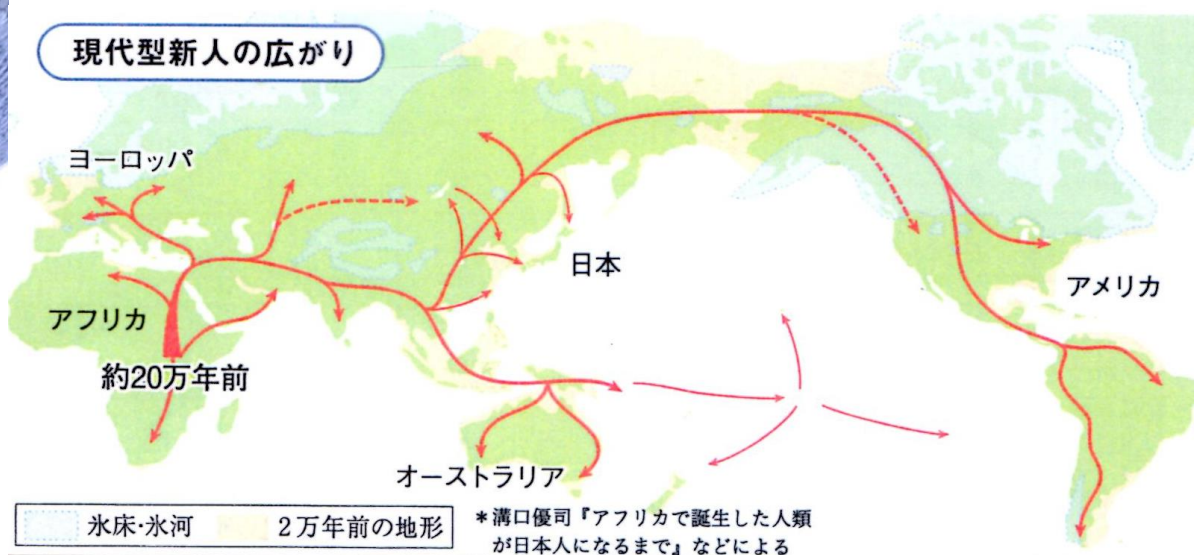
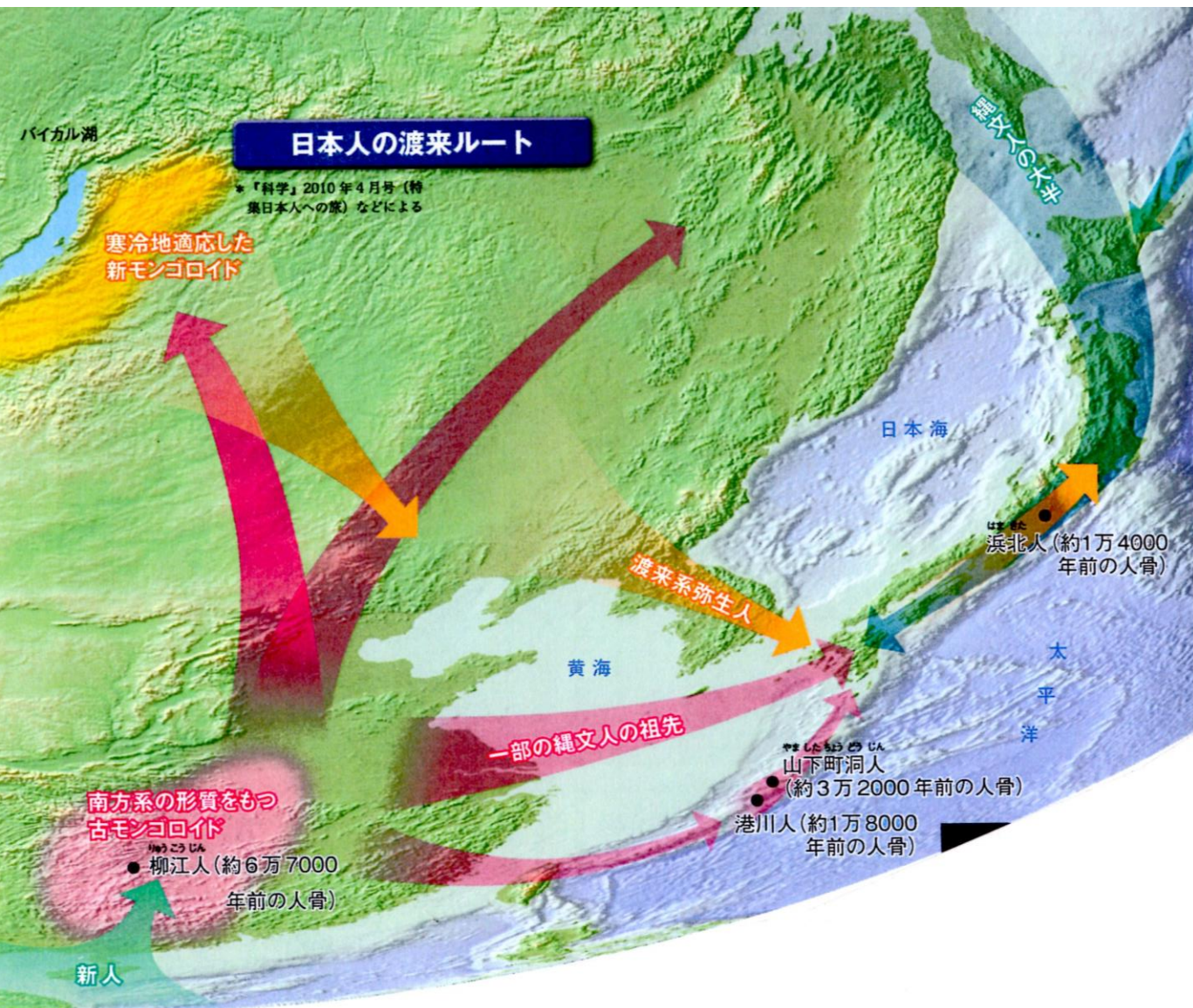
写真6-3 重さ3kgにもなる大型ハンドアック  
(所蔵・竹岡俊樹、写真・阿部雄介)



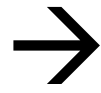
# ホモサピエンス 日本へ

## → 「豊かな自然」

- ・ 7-8万年前出アフリカ。海辺を追われ追われて3万年前日本到着
- ・ 世界3大漁場の一つに囲まれ「豊かな自然」に狂喜・定着
- ・ 1万5千年前、縄文時代始まる  
縄文人口:世界1000万人/日本20万人  
<~~~「豊かな自然」の賜物



# 無限の鉄



# 「旺盛な好奇心」

- BC10世紀、水稲伝来、弥生時代始まる
- BC3世紀、「米と鉄」は関東・東北まで
- 1トンの鉄を作るには薪100トン消化。一山はげ山。多雨の日本は30年で回復



多種の工具を作る余裕あり  
「旺盛な好奇心」を育んだ



ジャポニカ米の到来

# 文明の取込 → 「ドグマからの自由」

ドグマ～  
宗教上の教理

- ・ 仏教 : 552年 伝来のところ神仏習合の混乱あるも、平安、鎌倉仏教を経て「山川草木悉皆成仏」自然の中に霊が宿る日本人の世界観に合致。
- ・ 儒教 : 607年 中華国の儒教ヒエラルキを無視し聖徳太子から隋 煬帝へ挨拶「日出ずる国の天子、日没する国の天子へ致す。つつがなきや」
- ・ 律令制 : 663年 白村江戦後、官僚制を整備するも、科挙は入れなかった。
- ・ キリスト教 : 1549年ザビエル布教時「神は全て見通しておられる」薩摩の一庶民は「では、何故、今まで日本だけ見捨てられていたのですか」と質問。

～～> 日本はついで「飼い馴らしのシステム」を入れなかった（司馬遼太郎）

# 江戸時代の遠隔地交易

## → 「資本主義の発生」



- 大阪で市が立つ
- 北前船、樽廻船が行きかう
- 北から金肥、北へ木綿、赤穂塩、伊予絰  
東へ古着、酒、菜種油

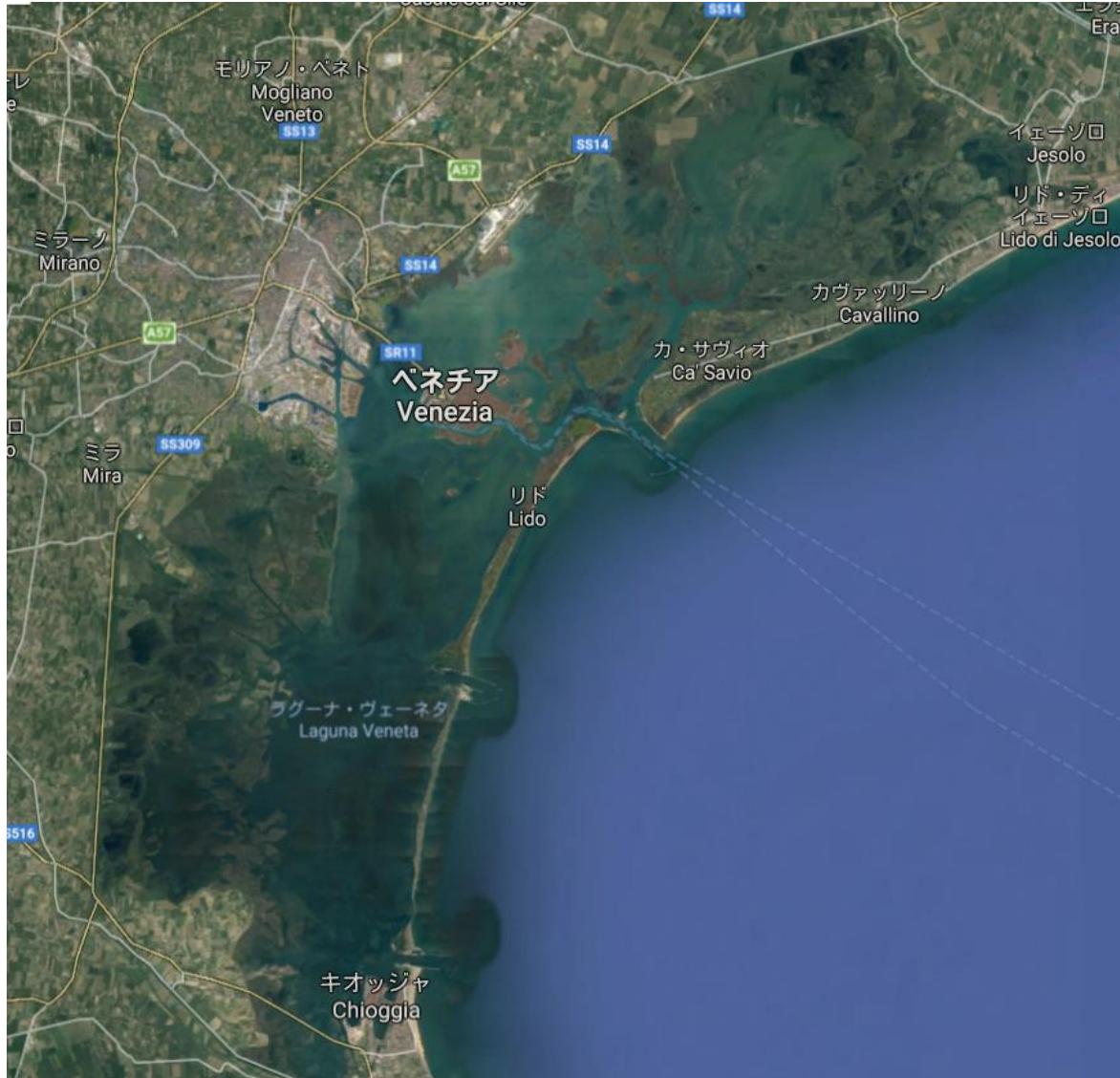


- 遠隔地交易で「差異性が利潤を生む」  
資本主義が生まれた。～＊
    - ↳ 識字率 7 割、質と量の正確な把握、  
契約を守る義務概念
- ＊ ～岩井克人

# 日本人の姿勢

- ・ 豊かな自然：追われ追われて辿り着いた日本は魚介類の宝庫
- ・ 旺盛な好奇心：森の回復が無限の鉄工具の利用を生む
- ・ ドグマからの自由：日本はついで飼育馴らしのシステムを入れなかった
- ・ 資本主義：遠隔地交易で「差異性が利潤を生む」～識字率、質量把握、契約重視

# 日本に良く似た国 ヴェネツィア

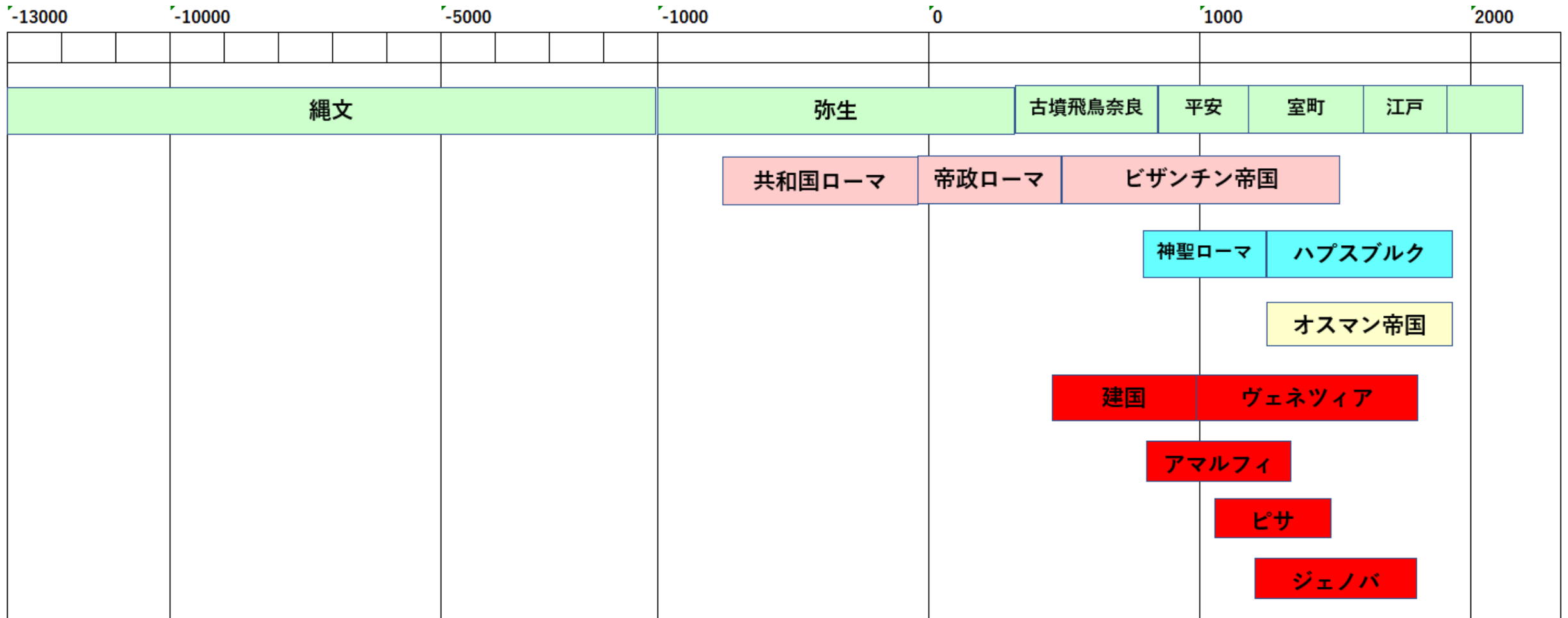


- ・豊かな自然：？
- ・旺盛な好奇心：定住困難なラグーナ（潟）の中に住み、辞書片手に外国と交易。
- ・ドグマからの自由：  
「先ずヴェネツィア国民、次いでキリスト教徒」と言われた
- ・資本主義：「初めに商売ありき」  
遠隔地交易で立国

# 何時の頃か？

日本の奈良・平安から江戸まで

- 日本の歴史は15,000年と長い。ヴェネツィアの歴史は遥かに短いとはいえ、ローマ帝国滅亡の頃の建国から1,300年、自立して800年の寿命を保った。



# ローマの平和

# ローマ帝国最大版図

すべての道はローマに通じる

- ・トラヤヌス帝 (在位98-117) 時代のローマ街道と国境線
- ・ヴェネツィアは国境線から3~400K mの位置にある。ローマ街道は内陸部を通る

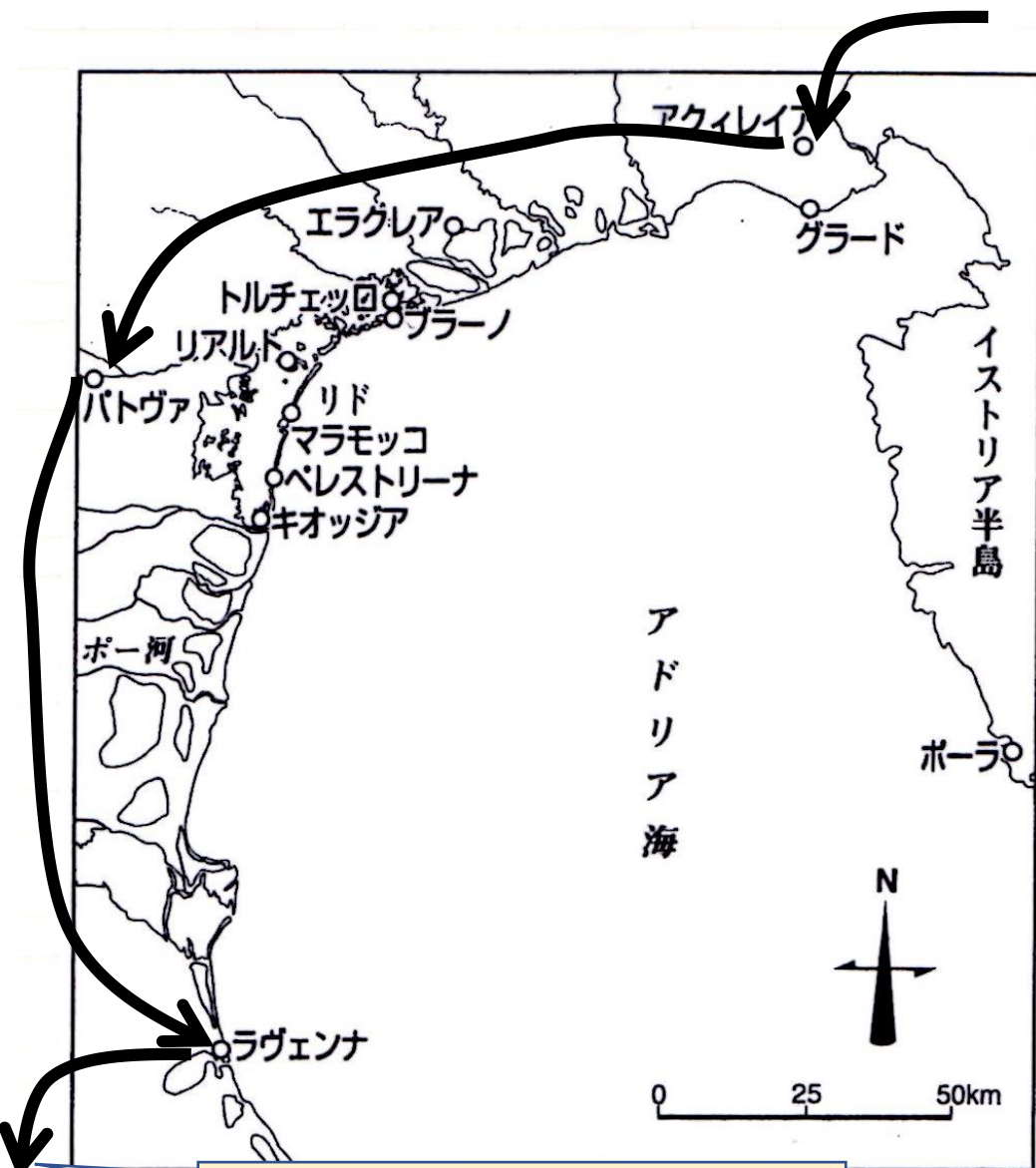




# ヴェネツィアの建国

建国史では452年

- ・ 452年 フン族アッティラ(在位433~453年)侵入。  
ハンガリから北イタリア略奪しローマに
- ・ 452年 ラグーナへ逃込みヴェネツィア建国



アッティラ略奪してローマへ至る



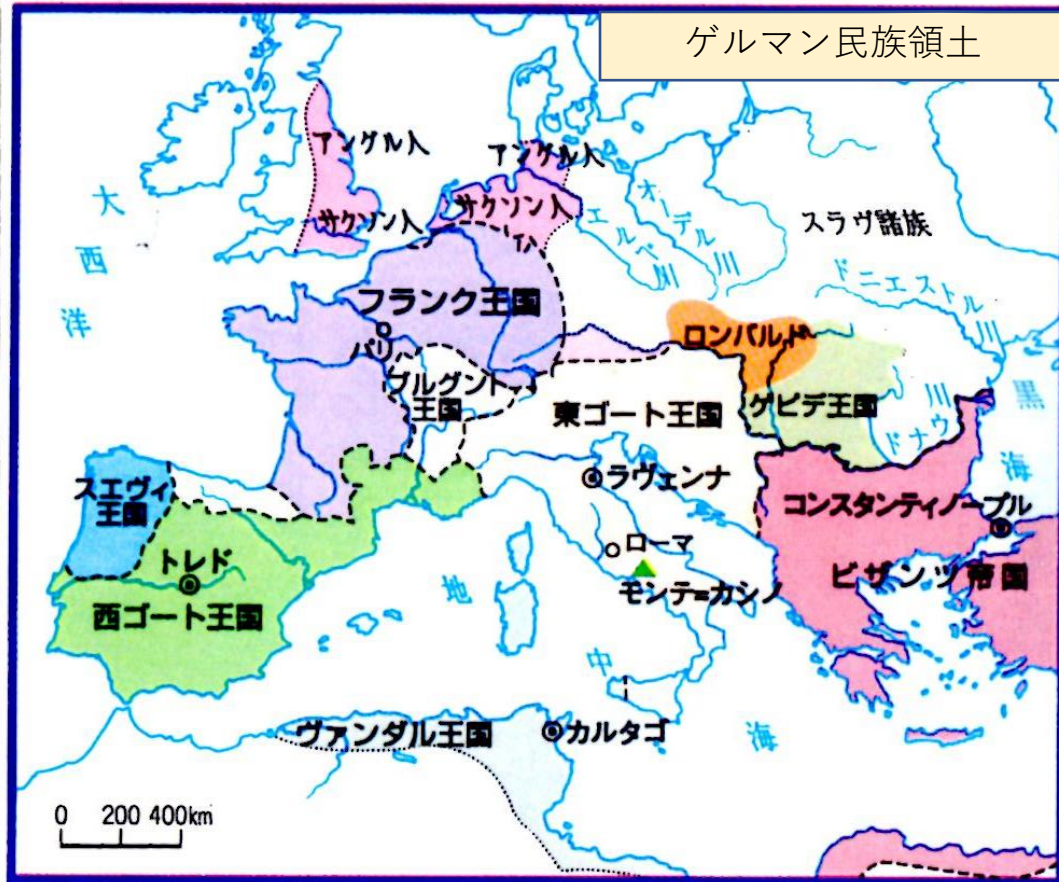
ラファエロ ヴァチカン美術館

# ヴェネツィアの建国

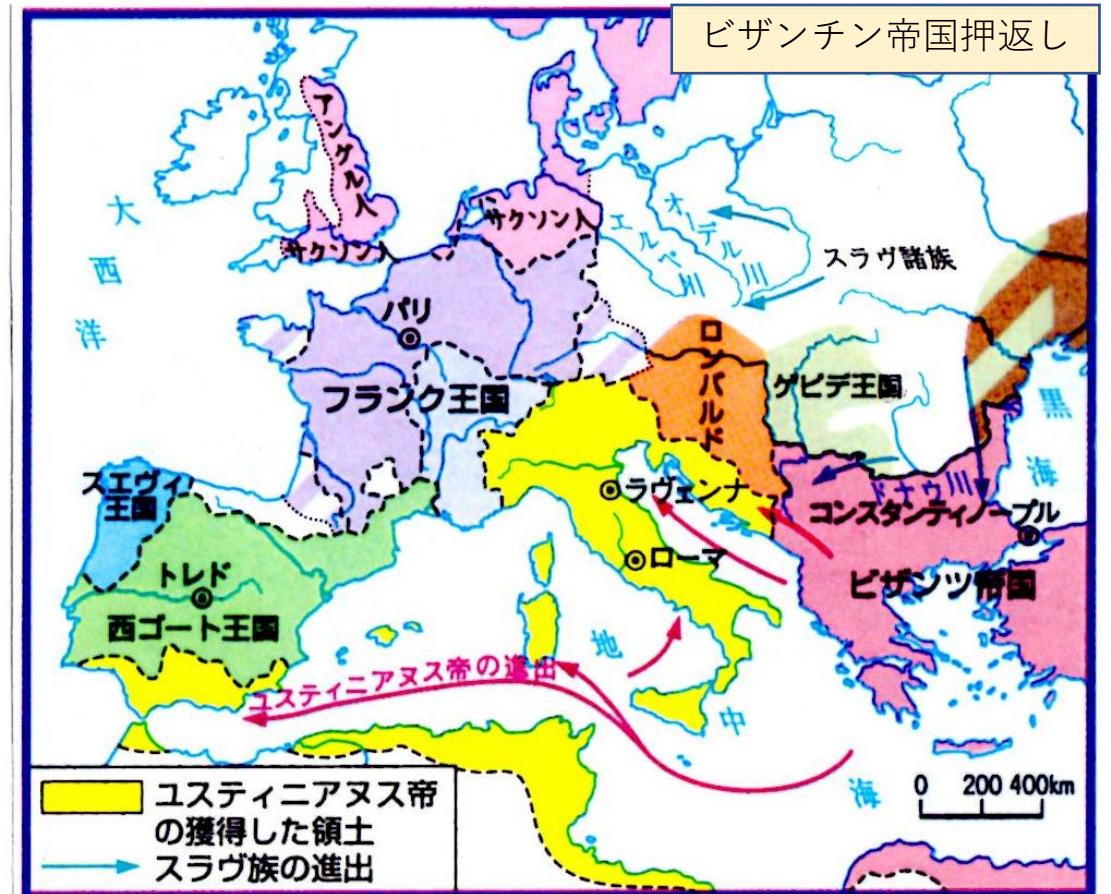
# ゲルマン民族乱立

- ・ 476年 オドアケルが、ラヴェンナでローマ皇帝廃位、西ローマ帝国滅亡
- ・ 492年 東ゴート族テオドリックが、オドアケルの帝国消滅
- ・ 552年 ユスティニアヌス帝が、タギナエの戦いで東ゴート族駆逐

## 6世紀前半のゲルマン諸国



## ユスティニアヌス帝時代(565年)



# ヴェネツィアの建国

# ビザンチン帝国下へ

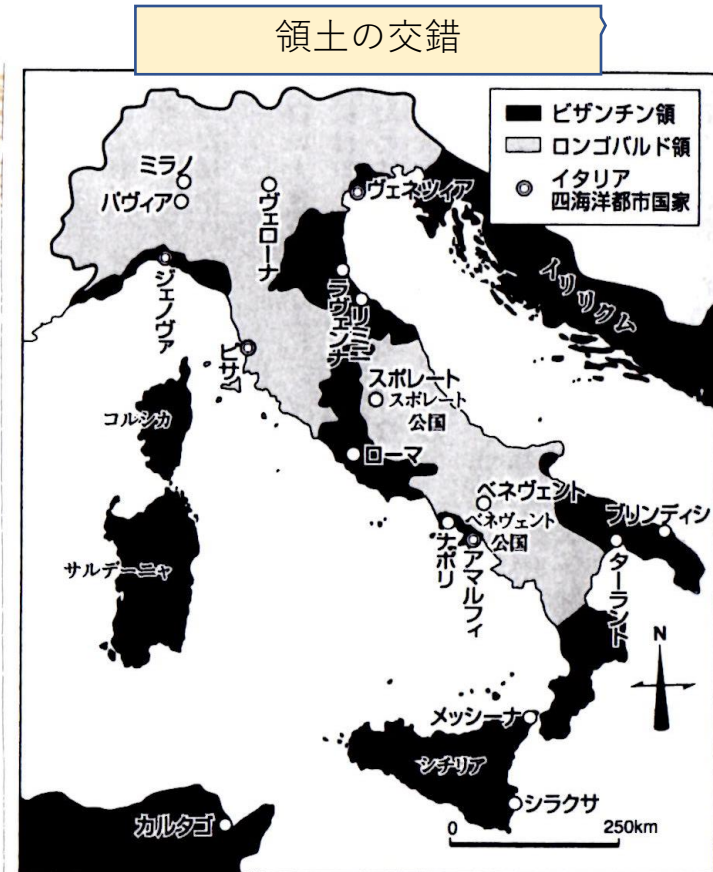


ユスティニアヌス帝モザイク画

- 552年 ラヴェンナにビザンチン総督府設置
  - 566年 ロンゴバルド族 イタリア侵入
- ビザンチン帝国とロンゴバルド領交錯



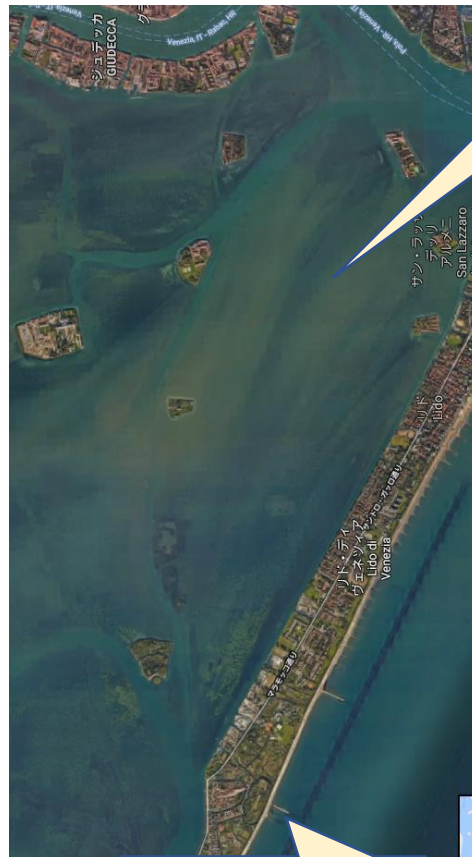
ラヴェンナの  
サン・ヴィッターレ寺院



6世紀から7世紀にかけてのイタリア半島(A. Giardina, G. Sabbatucci, V. Vidotto 著 "Manuale di Storia" Vol.1: Il Medioevo より)

# ヴェネツィアの建国 ラグーナ中央に都市建設

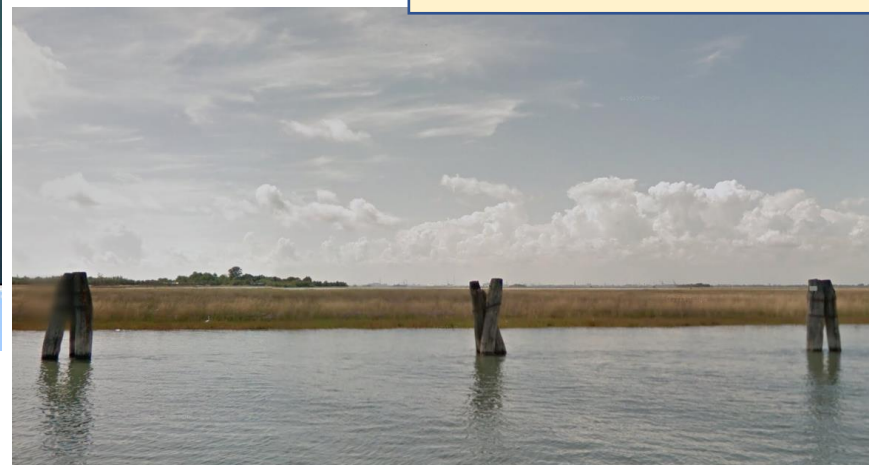
- ・ 800年 フランク王国シャルルマーニュ神聖ローマ帝国戴冠
- ・ 811年 息子ピピン マラモッコ焼き討ち 艦隊をラグーナに引込み、航路標識杭を抜き、座礁。  
小舟で焼打ち、撃退。 ～～> 防衛に有利なリアルトへ移動



ラグーナ (潟)

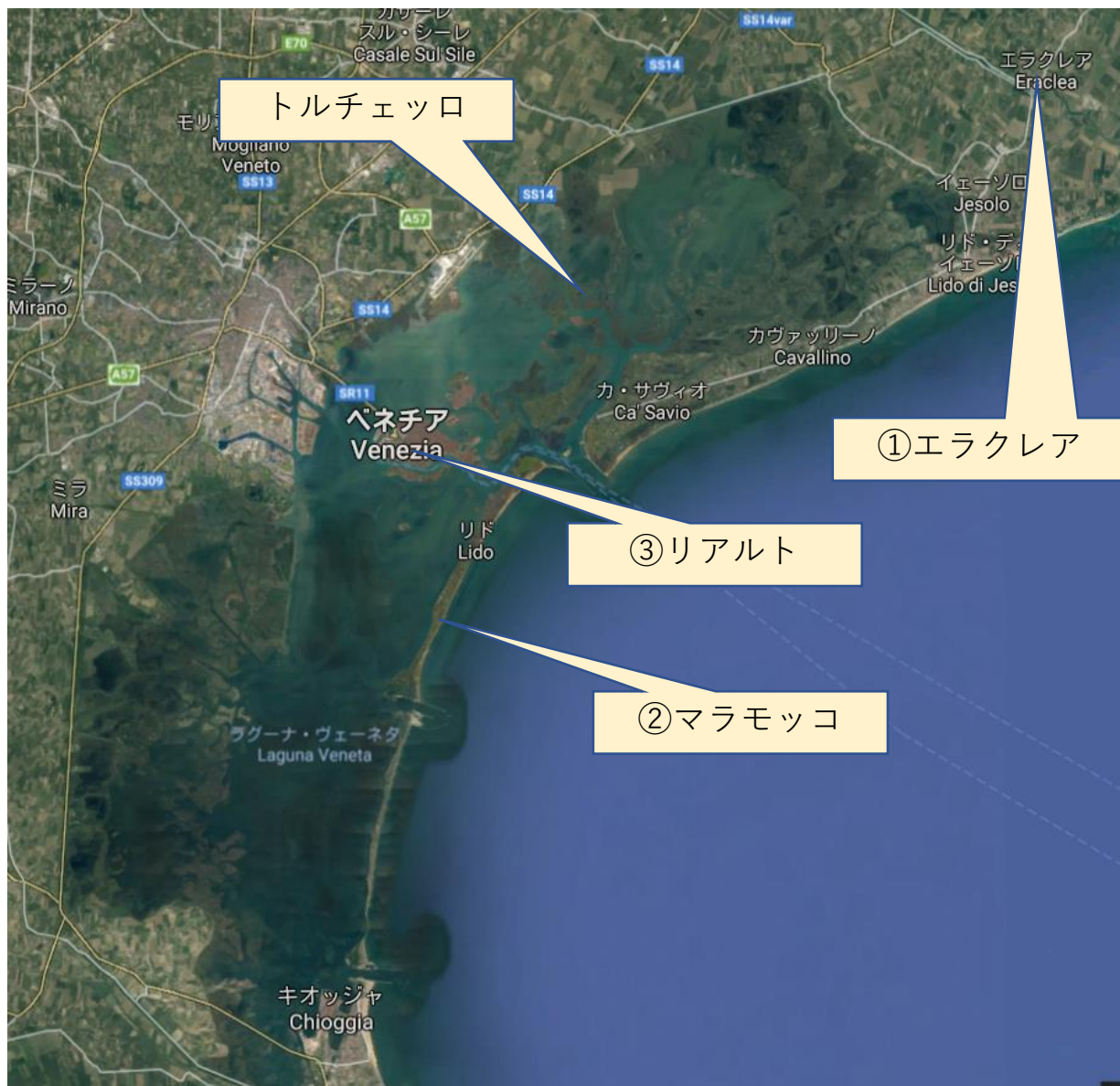


ラグーナの杭



マラモッコ  
東西400m

# ヴェネツィアの建国



## ラグーナ中央に都市建設

<追われ・追われて>

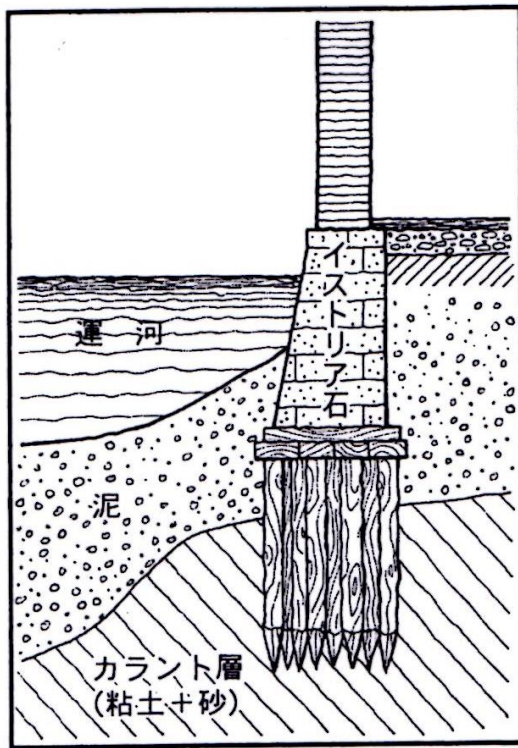
- ・ 452年 建国
- ・ 697年 ①エラクレアで初代元首就任
- ・ 742年 ②マラモッコに移動
- ・ 811年 ③リアルトで都市建設
- ・ 812年 両帝国が結んだアーヘン条約で  
ヴェネツィアは独立確保  
「ビザンチン帝国に属する」  
「神聖ローマ帝国内交易を認める」
- ・ 900年代 商業中心もトルチェットロから移動



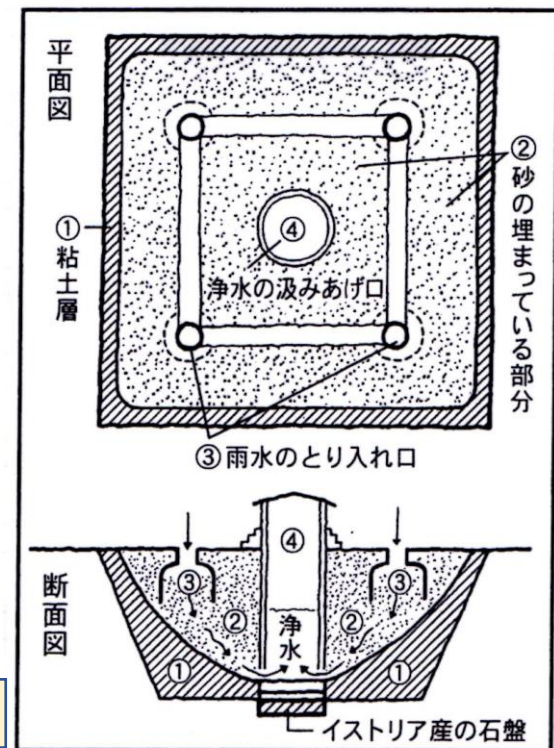
河川貿易で生き始めた

# 自立に向けて 衣食住

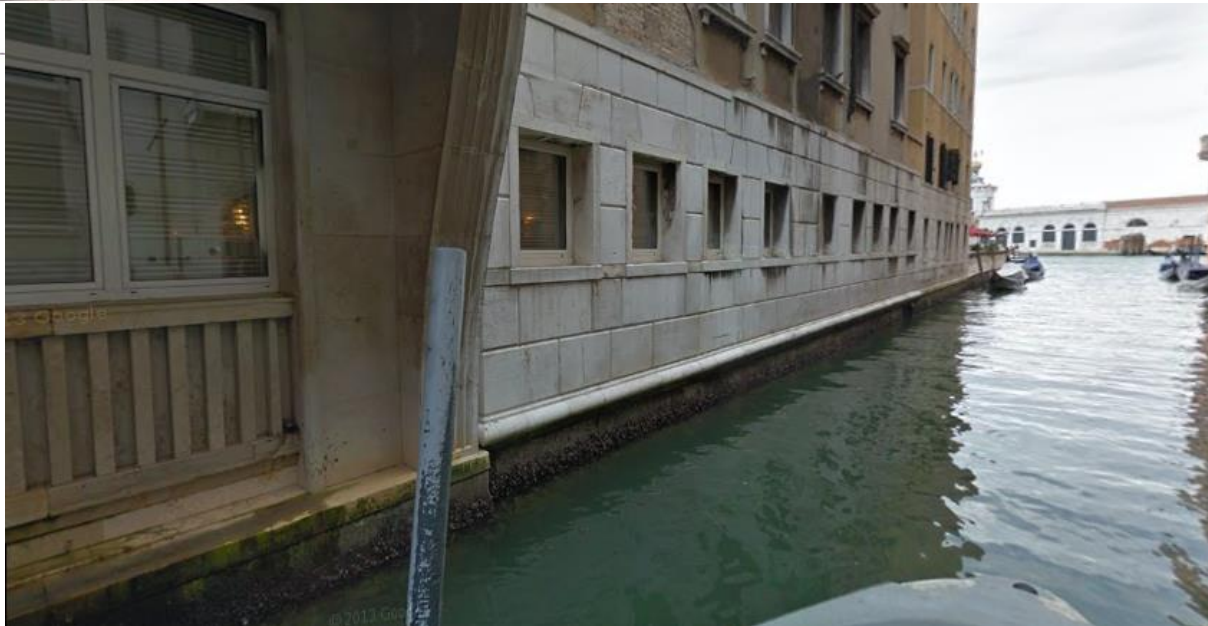
- ・海の中に移動して、魚と塩は食べ物や交易の糧として重宝された
- ・住むために木と石が持ち込まれた
- ・水は広場（カンポ）中央に井戸（ポッツォ）作成



建物基礎



井戸



# 自立に向けて

# リアルトに建設

- ・ 697年 住民投票でドージュ（元首）選挙  
立法府と行政府は1797年まで続く
- ・ 828年 エジプト アレクサンドリアから  
サン・マルコの遺骨を運び込み  
宮殿隣に元首個人の礼拝堂建立

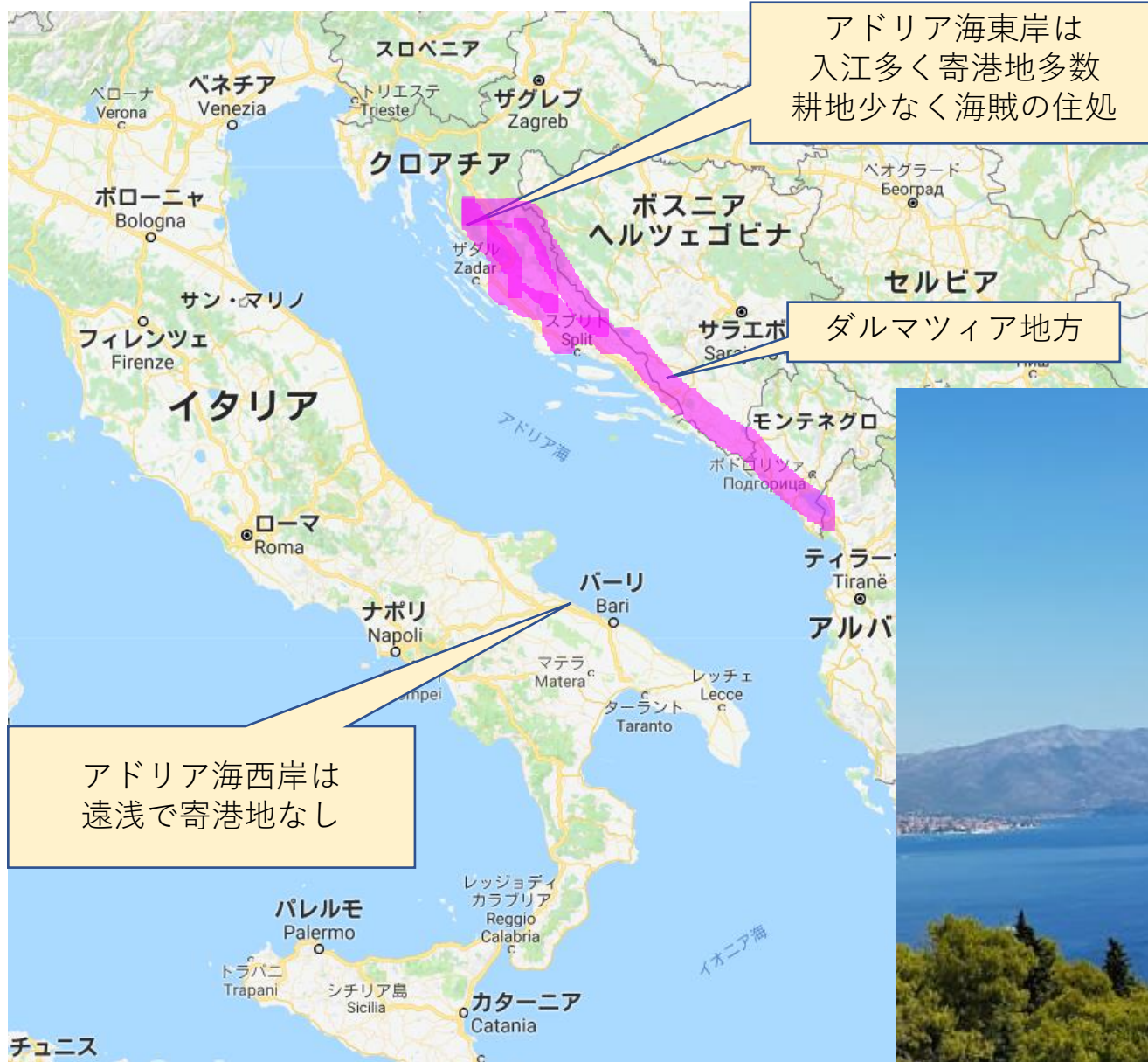


デューカーレ宮殿  
(元首宮殿)



サンマルコ寺院

# 自立に向けて



## 河川貿易から地中海へ船出

- ローマ帝国亡き後の地中海は海賊が席卷した
- 地中海へ出るにはアドリア海ダルマツィア地方に住むスラブ人海賊の駆逐が必須だった

ダルマツィア地方 コルチェラ風景





# 自立！！



ピエトロ・オルセオロ2世

ダルマツィア地方海賊駆逐



アドリア海の制海権確立

## スラブ人海賊を駆逐

- ・ 991年 ピエトロ・オルセオロ2世  
30歳で元首に就任
- ・ 992年 ビザンチン帝国と西方防衛の  
条約締結。条件は入港料半額
- ・ 998年 ダルマツィア地方の海賊討伐へ



## アドリア海の制海権確立

- ・ ダルマツィア海賊を水夫に雇用
- ・ 補給基地確保：コンスタンティノープル～  
～ヴェネツィア～アレクサンドリア
- ・ ビザンチン帝国に属すと表明することで  
西欧の皇帝派（ギベリン）と  
法王派（グエルフ）の争いから自由に

# 自立！！

ノルマン人大移動



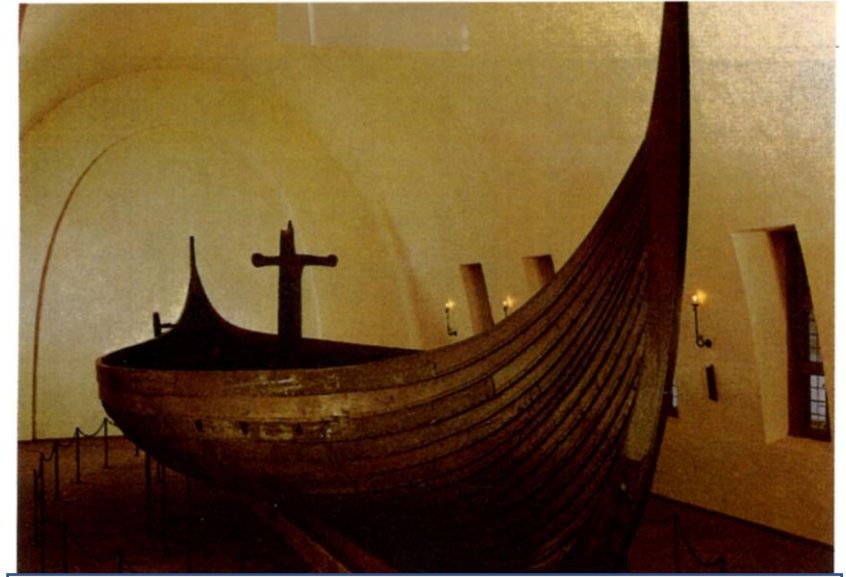
アドリア海の制海権維持

## ノルマン人海賊を撃退

- ・ノルマン人がロシア、フランス、イギリスへ侵入。シチリア・南イタリアへも侵入
- ・1081年 ビザンチン帝国と西方防衛の条約締結。条件は入港料無料
- ・1085年 バルカン半島へ渡ったノルマン人を撃退



## アドリア海の制海権維持

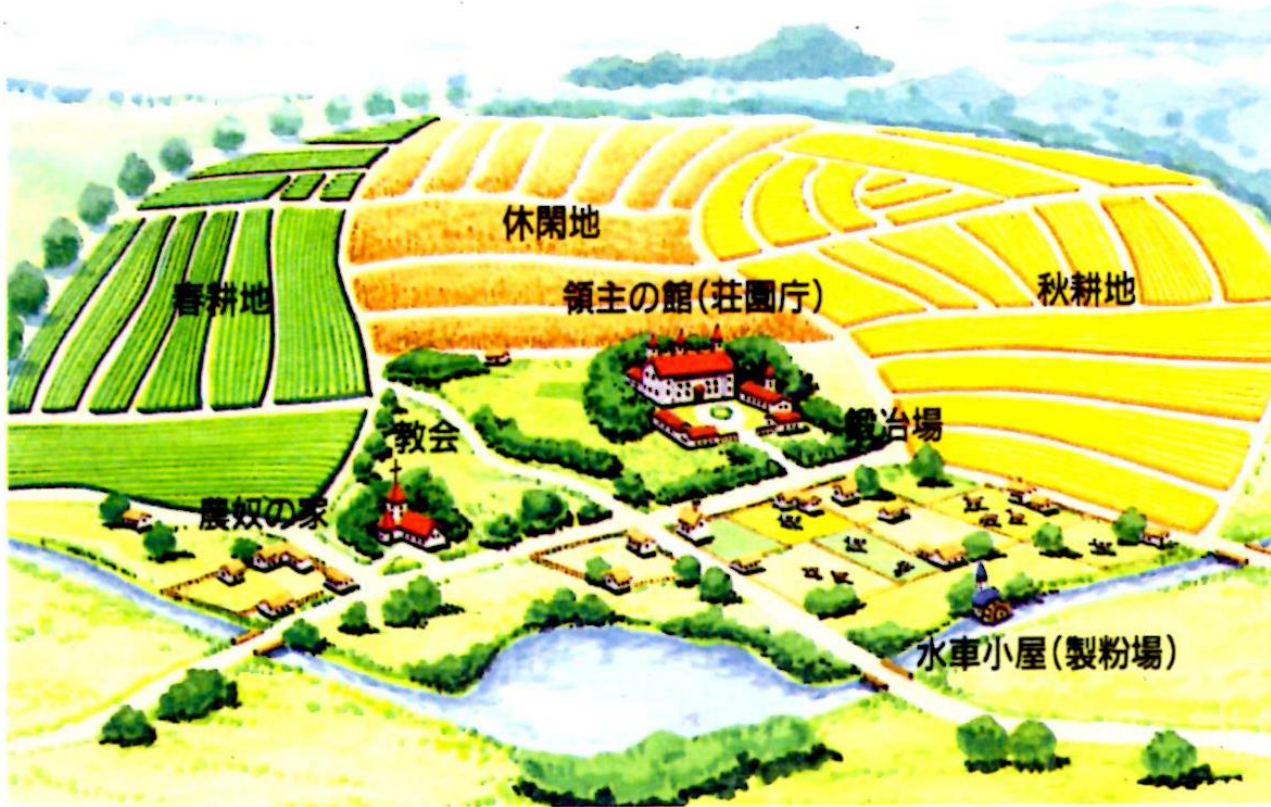


ノルマン人はロングシップで移動

# 十字軍

## 中世ヨーロッパの荘園

(「ライフ人間世界史4」タイムライフブックス)



↑中世の農村 荘園の中心に教会と領主の館、農民の家が集まり、その周囲に耕地や放牧地が広がる。耕地は三圃制によって、春耕地・秋耕地・休耕地に分けられている。

荘園

## 領土拡張の夢

- ゲルマン、ノルマン民族移動で各地に自衛、分立
- 鉄製犁を牛馬で引き、3年-2毛作の三圃制農耕。家族、親族を超えた協業で農業生産力向上。



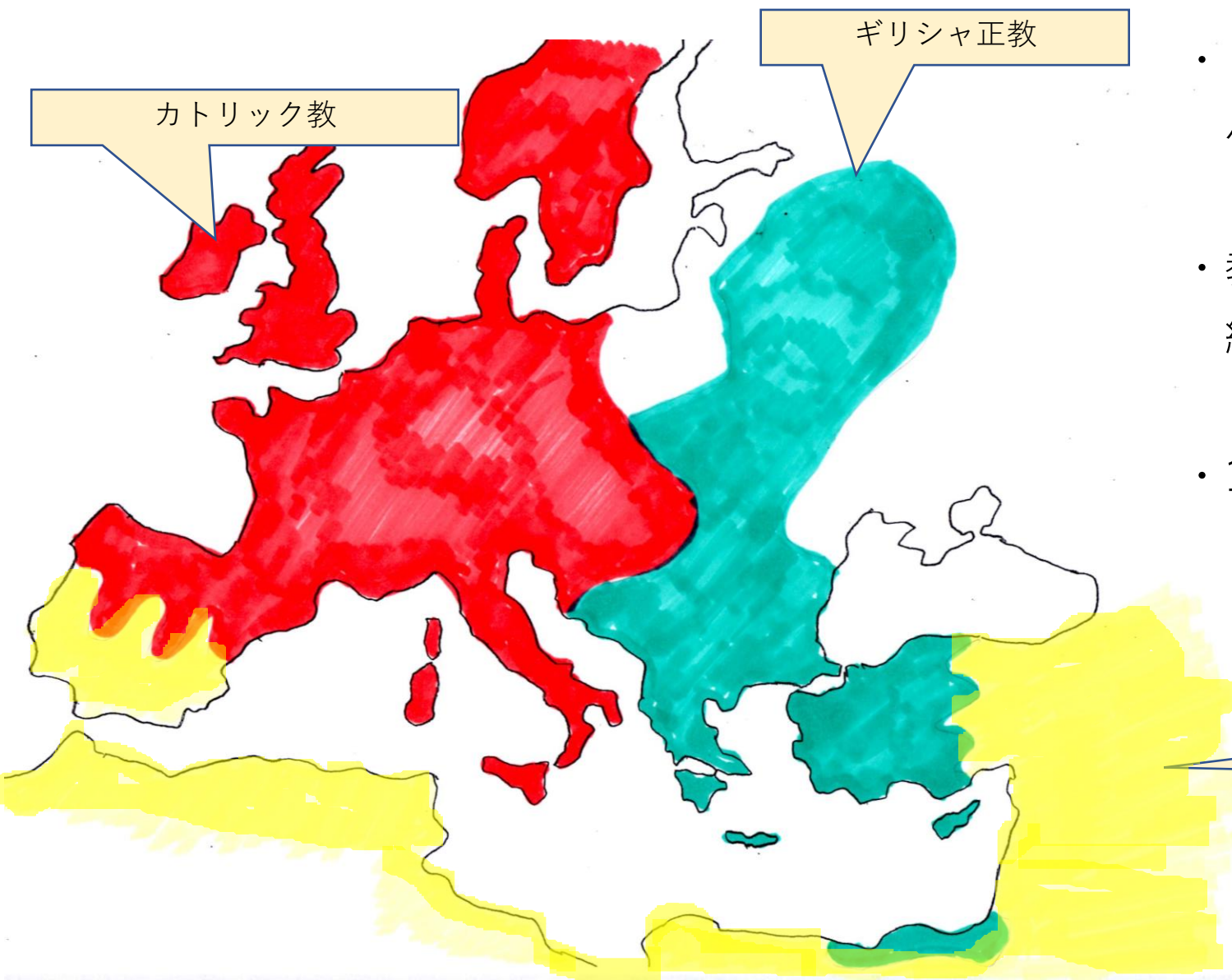
土地不足  
次男三男の独立  
領土拡張の野心



ペリー侯の歳時記

# 十字軍

## キリスト教世界統合の夢



- ・ビザンチン帝国はセルジュークトルコの  
小アジア、エルサレム占領を受けて  
ローマ教皇に救援要請
- ・教皇はギリシャ正教をカトリック教に  
統一するキリスト教世界統合を夢みた



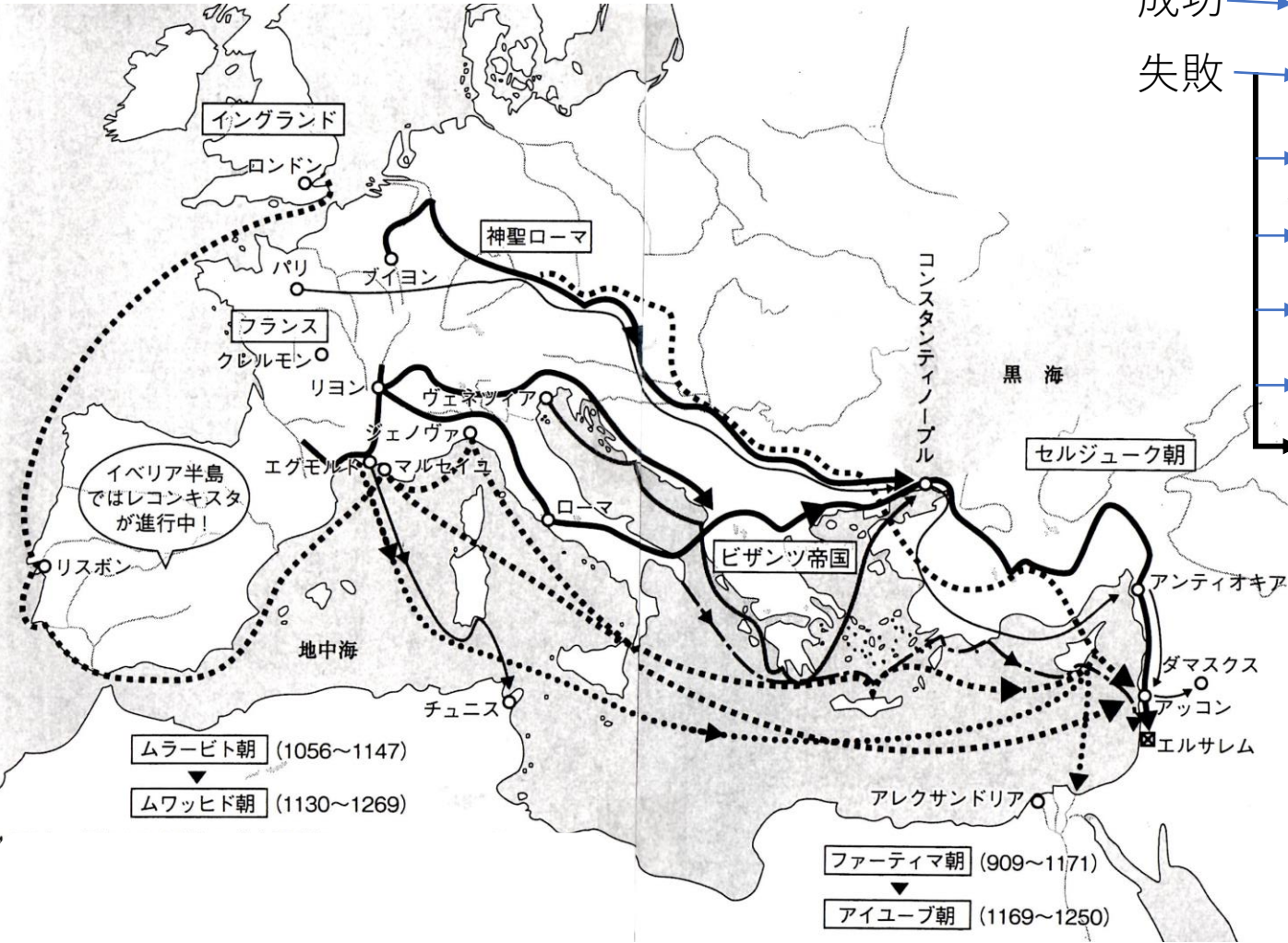
- ・1096年 ローマ教皇ウルバヌス2世が  
クレルモン公会議で十字軍提唱  
~~「神がそれを望んでおられる」~~

イスラム教

# 十字軍

成功 1 回 + 失敗 6 回

成功	→	1096~1099	第1次	エルサレム王国建国
失敗	→	1147~1149	第2次	内部対立で不成功
	→	1189~1192	第3次	サラディンと抗争
	→	1202~1204	第4次	ヴェネツィア破門
	→	1228~1229	第5次	フリードリヒ2世破門
	→	1248~1254	第6次	ルイ9世捕虜に
	→	1270	第7次	ルイ9世病没
	→	1291	終了	アッコン陥落



- 第1回遠征(1096~99年)
- 第2回遠征(1147~49年)
- 第3回遠征(1189~92年)
- 第4回遠征(1202~04年)
- 第5回遠征(1228~29年)
- 第6回遠征(1248~54年)
- 第7回遠征(1270年)

# 十字軍は失敗に

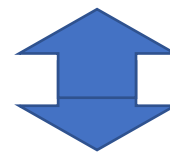
# 領土拡張/キリスト教統合の夢破れ

<異分子導入に抵抗した人々>

- ・従軍した諸侯、騎士の没落
- ・教皇権失墜

→1077年 カノッサの屈辱から

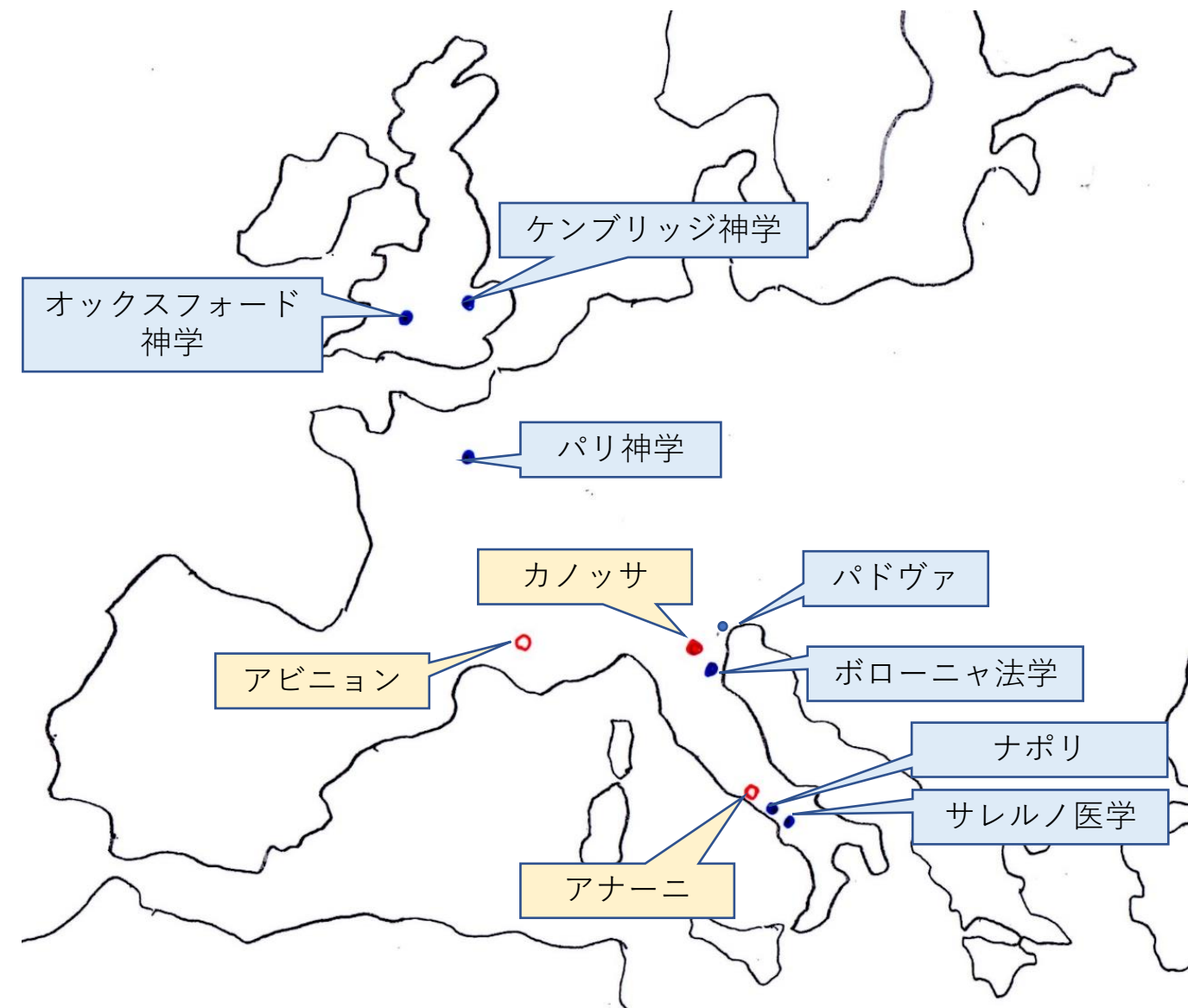
1309年 アビニョン捕囚へ落差大



<異分子交流に刺激を受けた人々>

- ・王権の伸長
- ・都市国家の繁栄

→大学設立、ルネサンス開始



# 十字軍時代ヴェネツィアは

## コレガンツァ開始

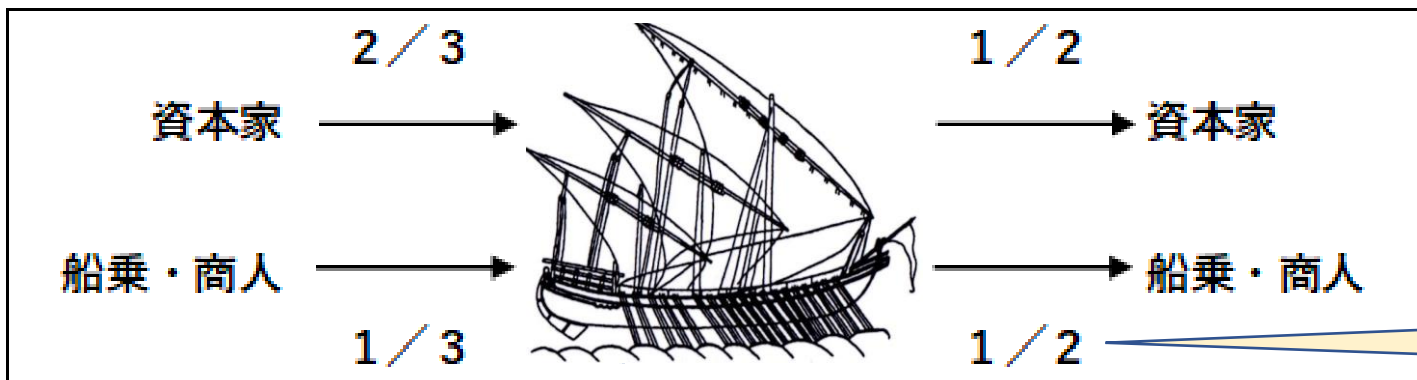
- ・ 1104年頃 コレガンツァ始まる。

(限定合資会社)

- ・ 家族、親族を超えて協業の輪を広げた
- ・ 資本ゼロでもコレガンツァに参加すれば利益の1/4を得ることができた。敗者復活の道になった。

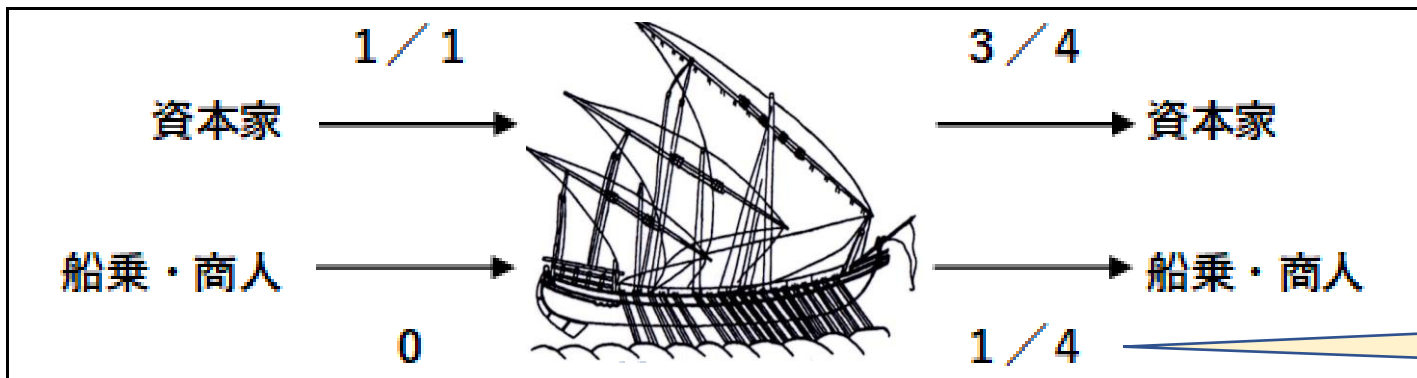
### コレガンツァの出資と収益

#### コレガンツァ 1



普通：資本1/3出資で利益の1/2

#### コレガンツァ 2



特別：資本ゼロでも利益の1/4

# 十字軍時代ヴェネツィアは アルセナーレ創立

- 1096年始った十字軍は船舶需要を生む
- 1104年 アルセナーレ(国営造船所) 創立
- ヴェネツィアの造船技術は9～17世紀 確実に他国を凌駕した。外国人に船を売れば厳罰に処せられた



18世紀 造船所所属学校教授  
ジャニマリア・マフィオレッテの絵



現在の姿

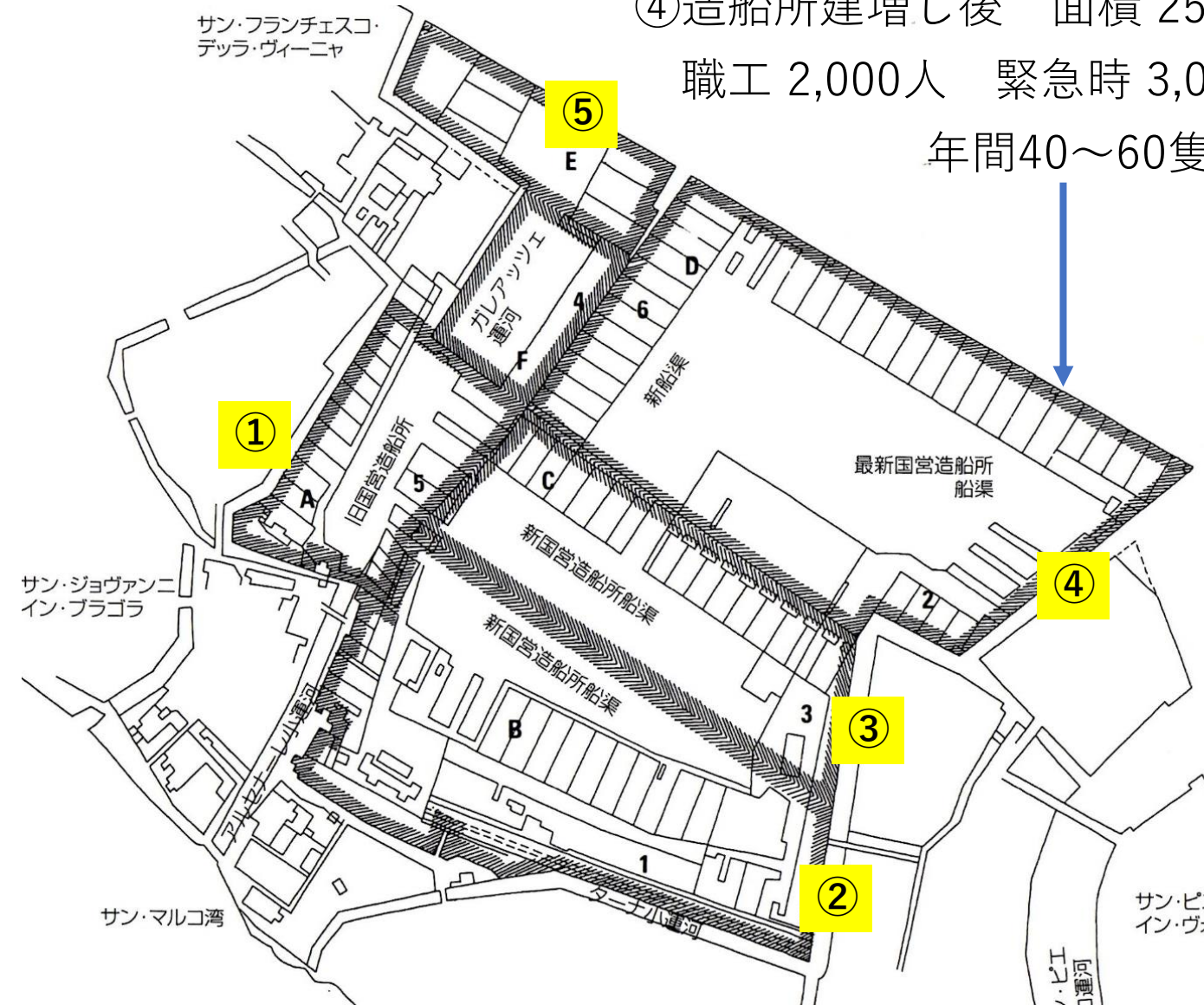


# アルセナーレ

## 次第に拡張

④造船所建増し後 面積 25万坪  
職工 2,000人 緊急時 3,000人  
年間40~60隻進水

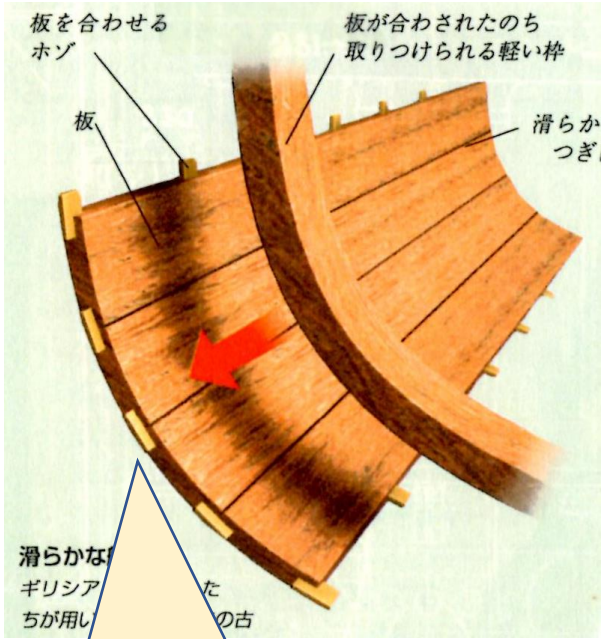
- ~~ 十字軍開始 ~~  
① 1104年  
~~ ジェノバ戦開始 ~~  
② 1303年 ③ 1325年  
~~ トルコ戦開始 ~~  
④ 1473年 ⑤ 1539、64年



島内唯一の峡間胸壁で囲われる

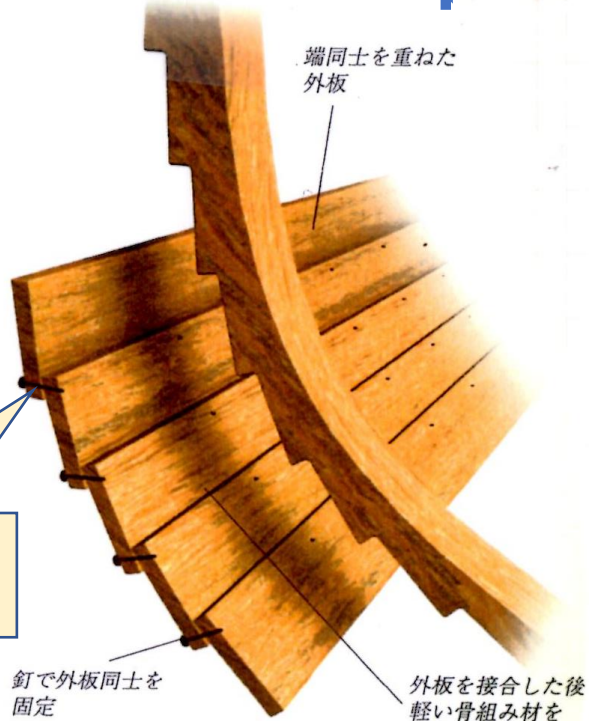
# アルセナーレ

# 工法の改善

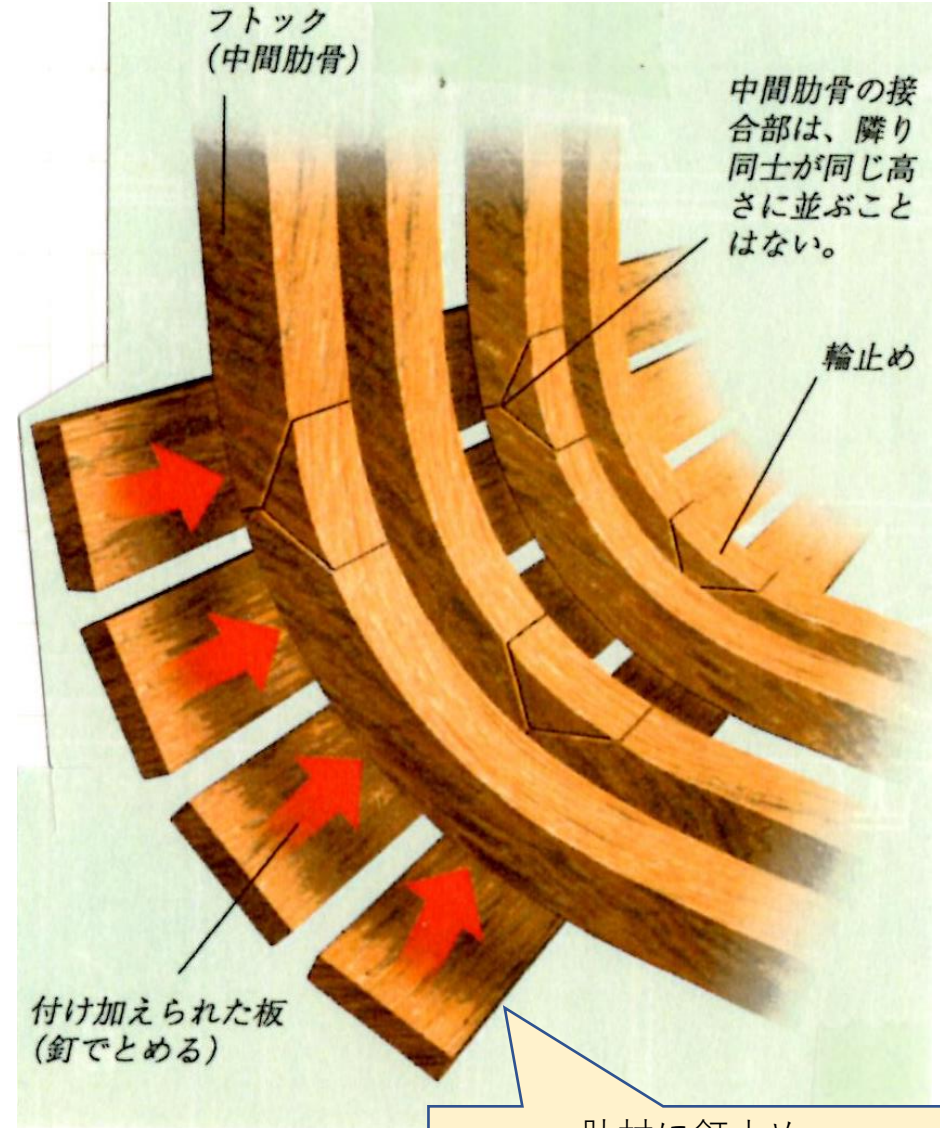


板同士をほぞとほぞ孔でつなぐ。  
ギリシャ、ローマ時代からの工法

板を重ねて釘止め。  
北方ノルマンの工法



クリンカー・ビルト (鏝張り工法)

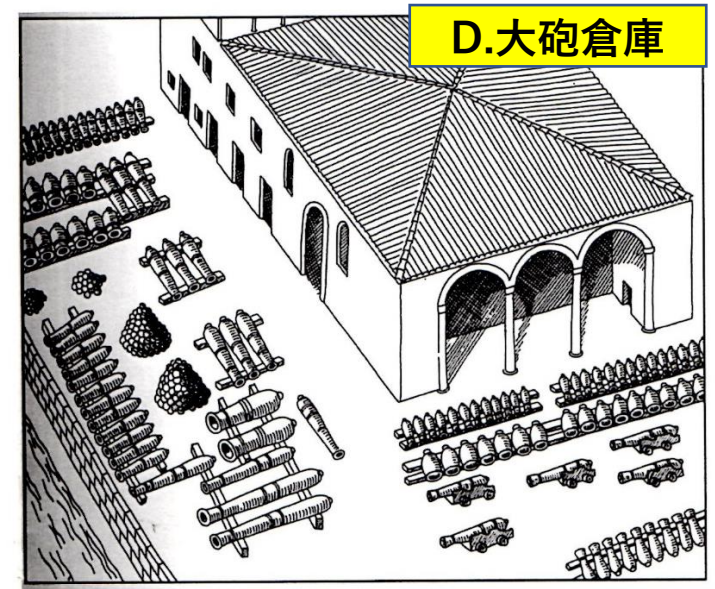
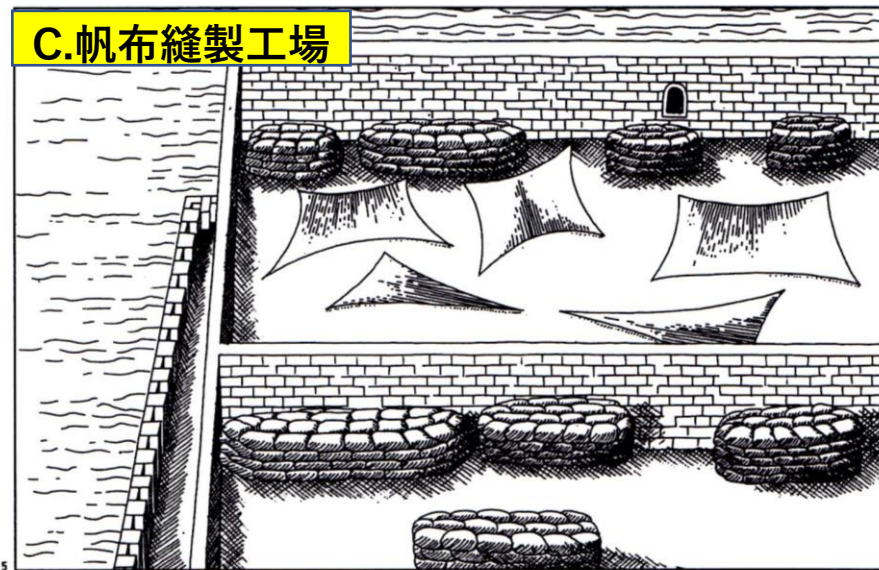
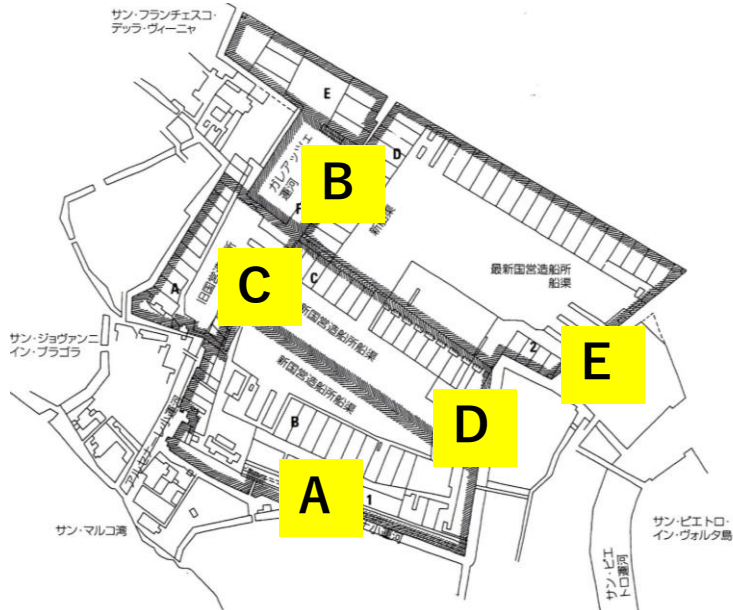
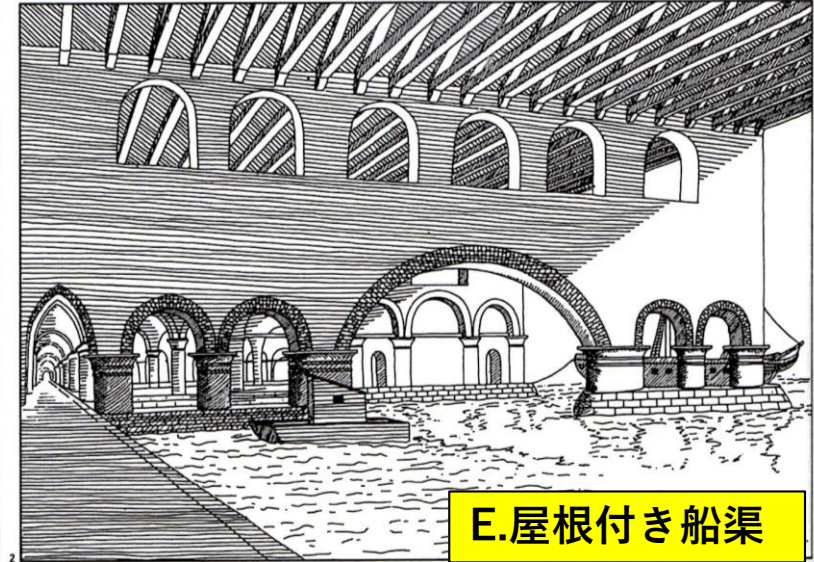
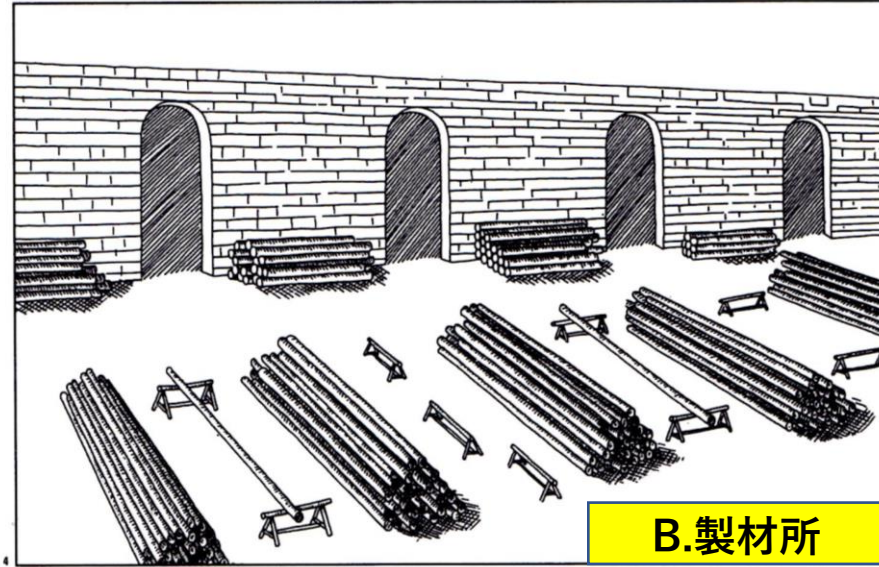
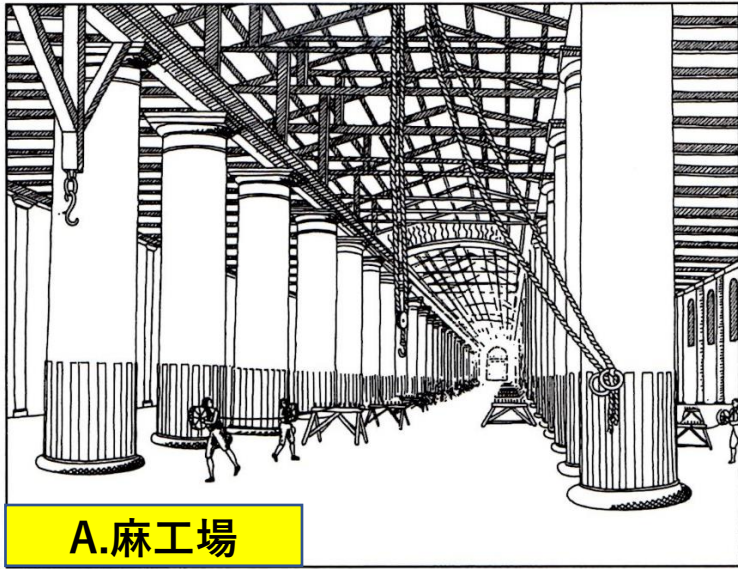


カーヴェル工法

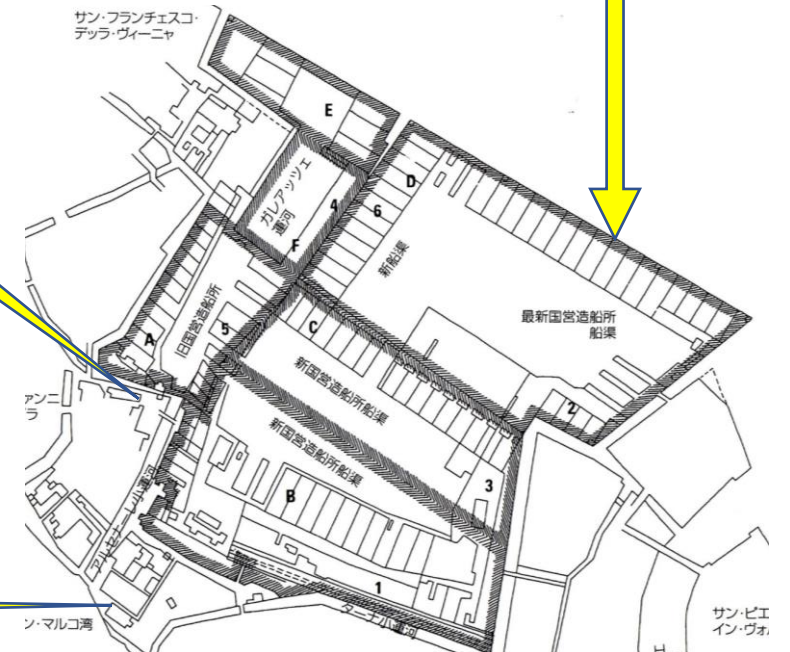
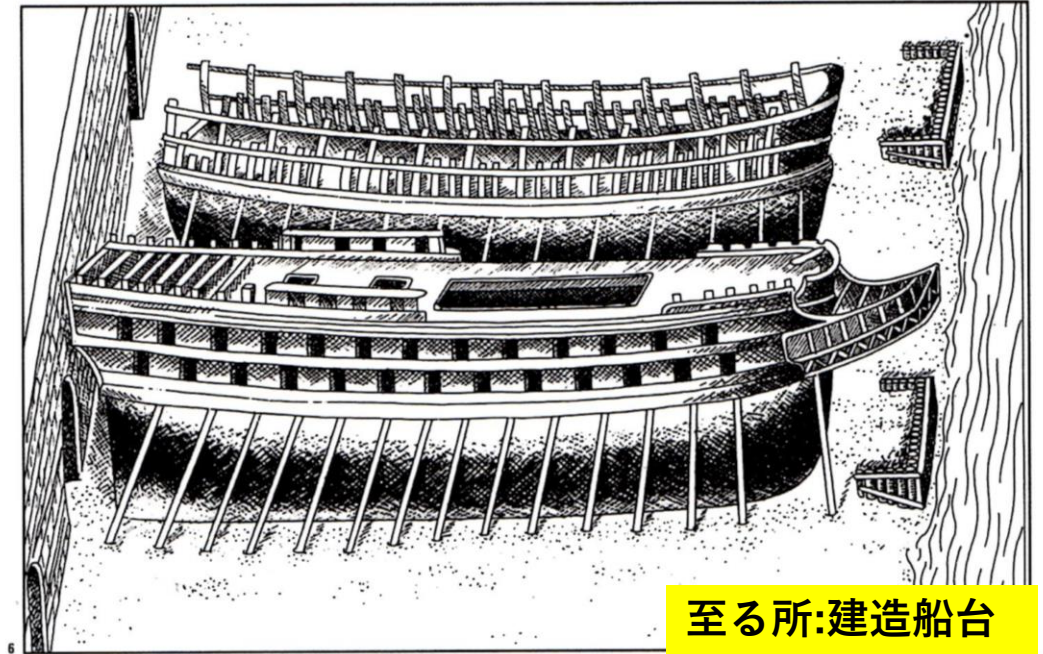
肋材に釘止め。  
11世紀頃から使用された工法  
工期短縮。設計が必要になる

# アルセナーレ

## 各区画の詳細



# アルセナーレ



# アルセナーレ

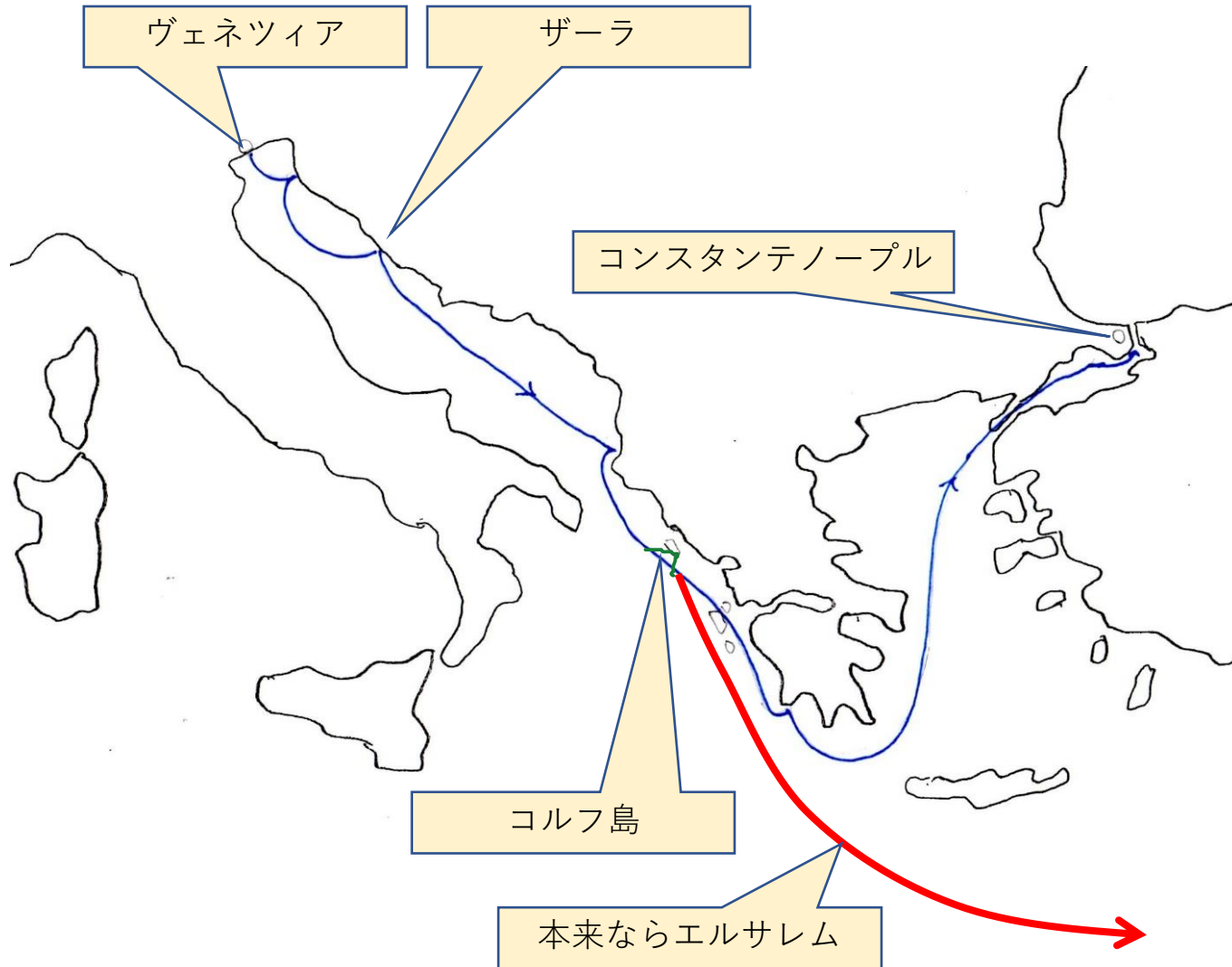


## 海洋博物館展示

← 展示場はかつての  
食糧倉庫を流用

← 御召船 ブチントーロ

# 十字軍時代ヴェネツィアは 第4回十字軍



- 1198年 フランス諸侯 十字軍発起
- 1201年 ヴェネツィア訪問し運輸を依頼  
人間33500人と馬匹4500頭を運ぶ船と食料  
期間1年、対価は8500マルク



- 元首エンリコ・ダンドロは国会に諮る  
ヴェネツィアも元首と6000人参加しよう  
1年で船を作ろう  
対価は十字軍占領地の1/2
- 国会は圧倒的な賛成 ----> 契約締結



- 1202年迄一年間アルセナーレはフル操業、  
船舶・食料を契約の全量準備した。

# 第4回十字軍

## ザーラ攻略

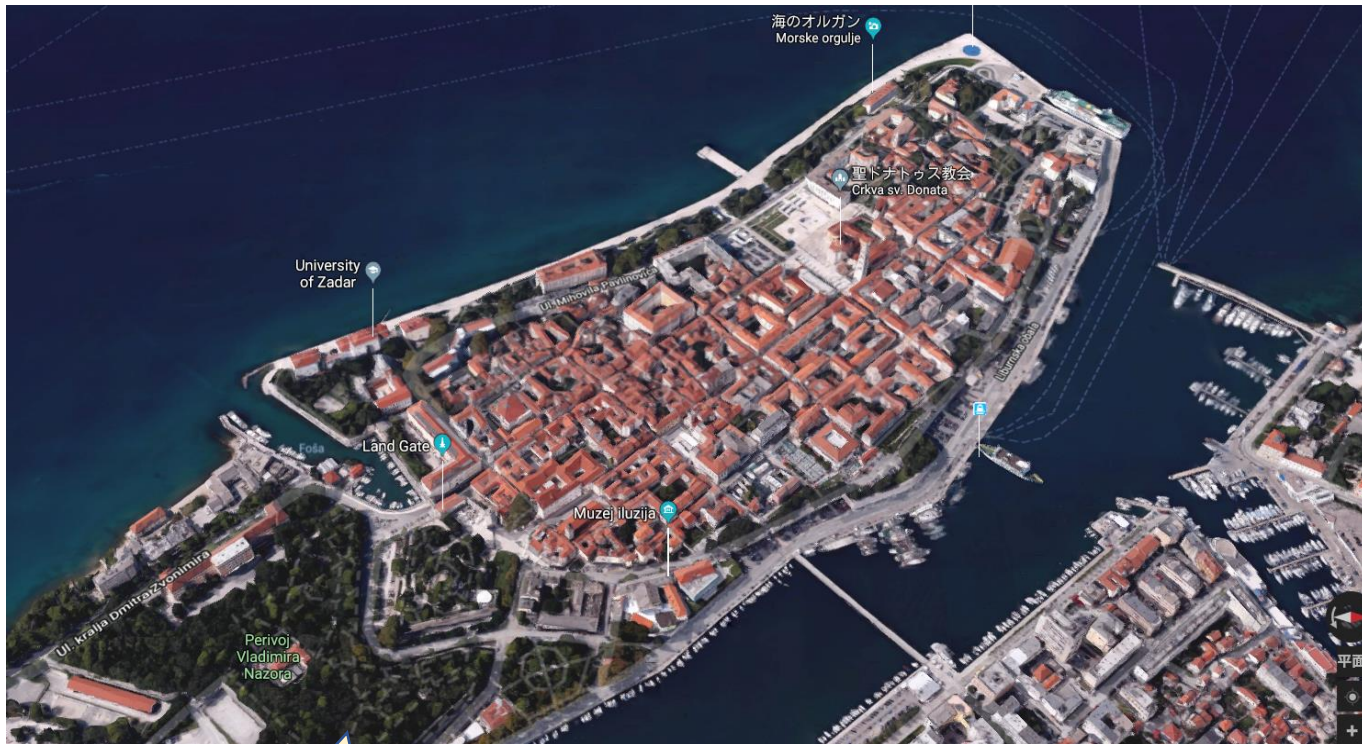
- ・ 1202年 総大将モンフェラートが率いたフランス軍は「1万人と2500マルク」と契約の1/3以下で来参。 ---→契約違反



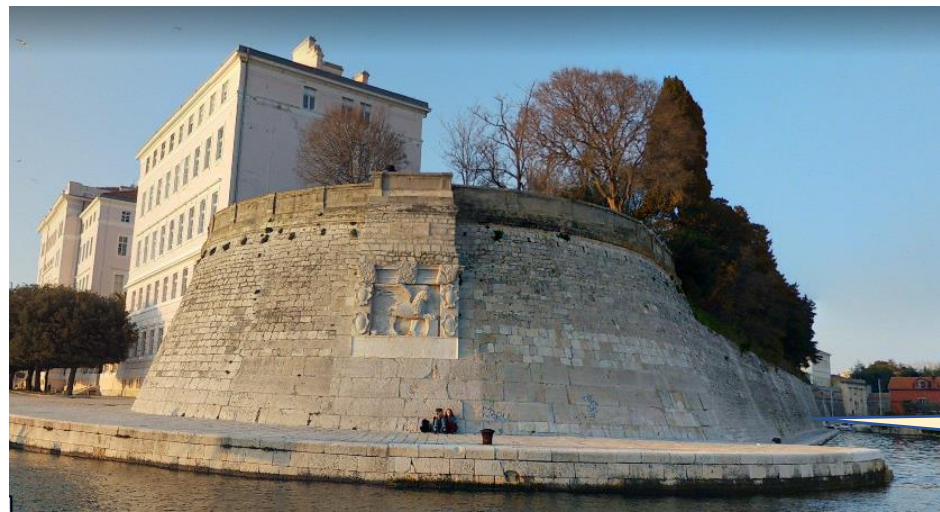
- ・ ダンドロは借金返済猶予にザーラ攻略提案  
ザーラはハンガリー王の扇動に乗り反抗中
- ・ 1202年11月25日 ザーラ落城



- ・ 教皇はキリスト教国ザーラを  
攻めたヴェネツィアを破門。  
ダンドロは無視して前進。



ザーラ旧市街



市街地を取囲む城壁

# 第4回十字軍



ティントレット 元首宮殿大評議の間壁画

## コンスタンチノープル攻城

- ・1202年 ザーラで越年中、ビザンチン帝国皇子訪れ、皇位篡奪した叔父を滅亡すれば「ギリシャ正教をカトリック教会に統合」「兵士1万人と20万マルク提供」を提案。モンフェラート、ダンドロ合意---→契約締結



- ・1203年6月23日 コンスタンチノープル攻城



ヴェネツィアは海から攻撃



# 第4回十字軍

## コンスタンチノーブル落城

- ・7月 コンスタンチノーブル落城、叔父逃亡皇子は契約金支払不能、キリスト教統合に動くも先帝むこが皇子を殺害 ---→契約違反



- ・コンスタンチノーブル攻城再開
- ・1204年4月12日 コンスタンチノーブル落城  
3日間の略奪が許され、戦利品40万マルク



1841年 ルーヴル美術館蔵

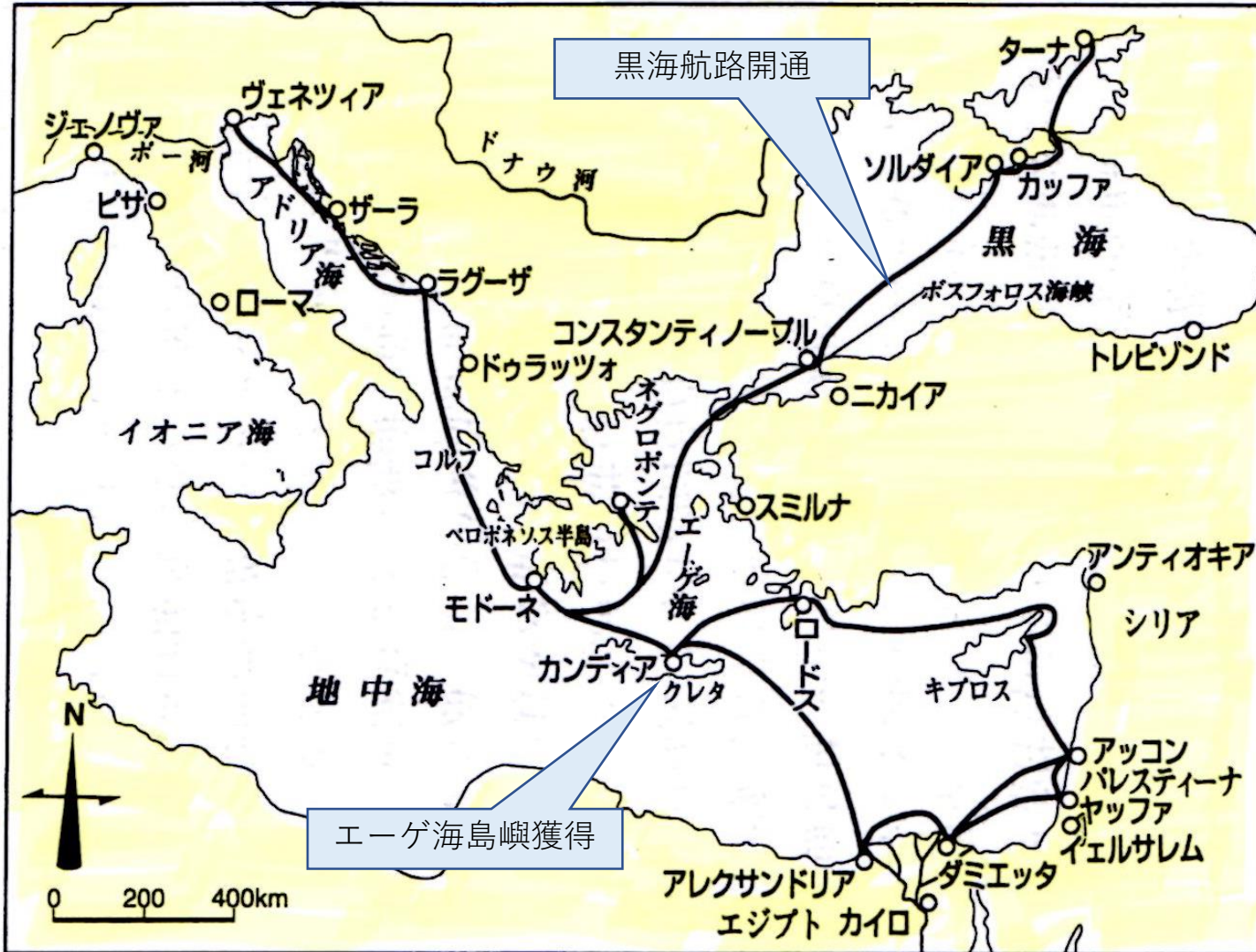
ドラクロア ルーヴル美術館

サンマルク寺院の馬も戦利品



# 第4回十字軍

## 東ローマ帝国の3/8主催者



- ・ビザンチン帝国を廃しラテン帝国設立。新皇帝はフランドル伯ボードワンに
  - ・ヴェネツィアは旧来の「共和国元首」「ダルマツィア侯爵」の称号以外に「東ローマ帝国の3/8主催者」を得た。
- ↓
- ・クレタ島、ネグロポンテを得る。
  - ・ボスポラス海峡開通、黒海への航路を確保して東方との交易始まる。
  - ・1243年 モンゴル帝国成立し交易路確保。
- ↓

欧州歴史学ではダンドロの評価が悪い  
契約を守り通したダンドロは評価さるべき

# 十字軍後のヴェネツィア イタリアは君主制に



- 13世紀末の都市国家は民主制から僭主制、やがて君主制に変わった
- 共和国が中央集権国家に纏められる動きの中で小国が淘汰された

# 十字軍後のヴェネツィア 政治の改革



ピエトロ・グラデニーゴ

- 1289年 ピエトロ・グラデニーゴ38歳で元首就任
- 1297年 時期を待つこと7年目に改革開始

「貴族制」→君主制防止：国会議員を終身制／世襲制に。  
市民大会の権限を無くし、野心家が大衆をあおって  
元首就任する道を閉ざした

「十人委員会」→行政府強化：反国家陰謀防止のため設立。  
次第に権限を増し少数委員で政策決定

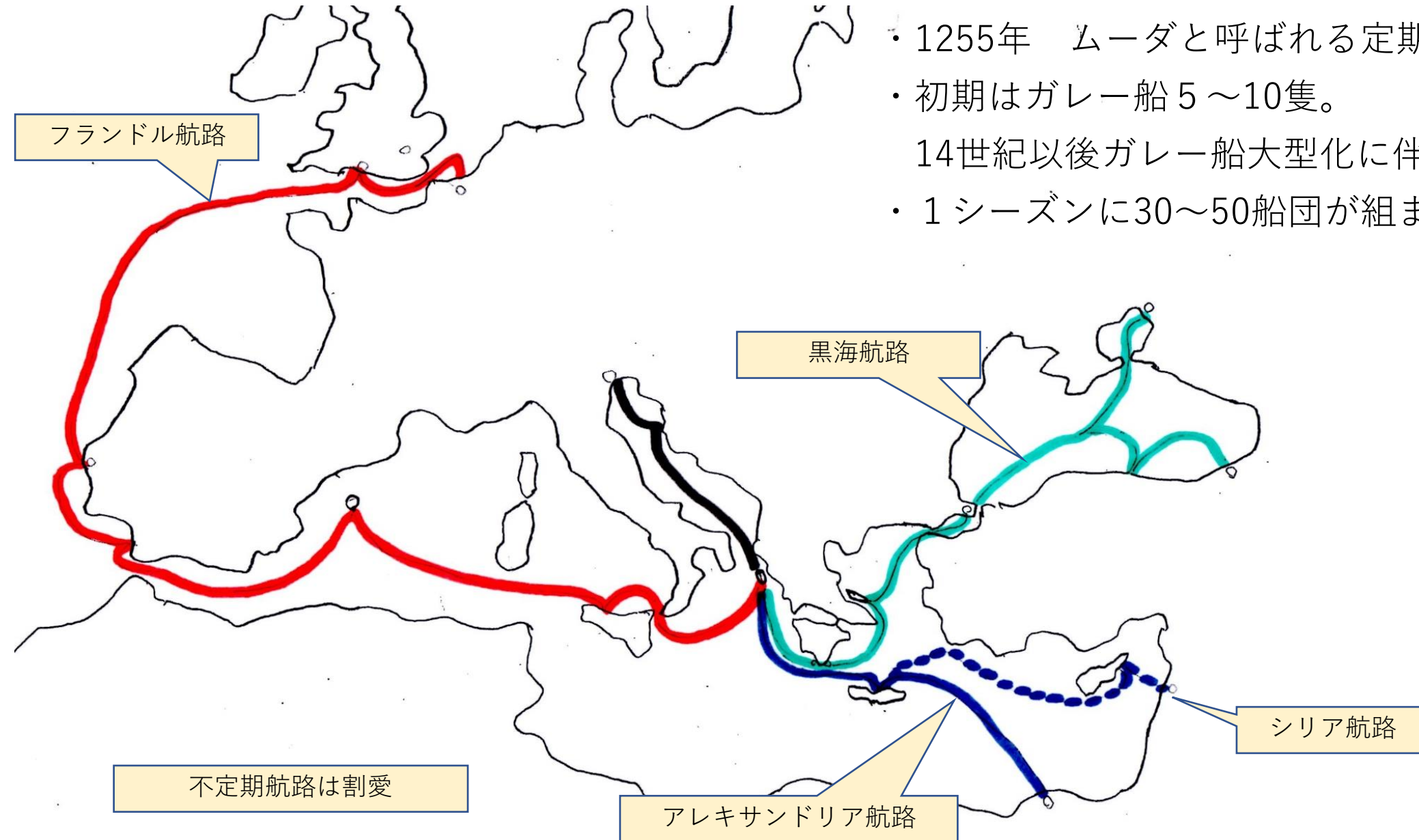


元老院会議場

# 十字軍後のヴェネツィア

## 技術の改革<ムーダ>

- ・ 1255年 ムーダと呼ばれる定期商船路が始まる
- ・ 初期はガレー船5～10隻。  
14世紀以後ガレー船大型化に伴い2～3隻。
- ・ 1シーズンに30～50船団が組まれた。



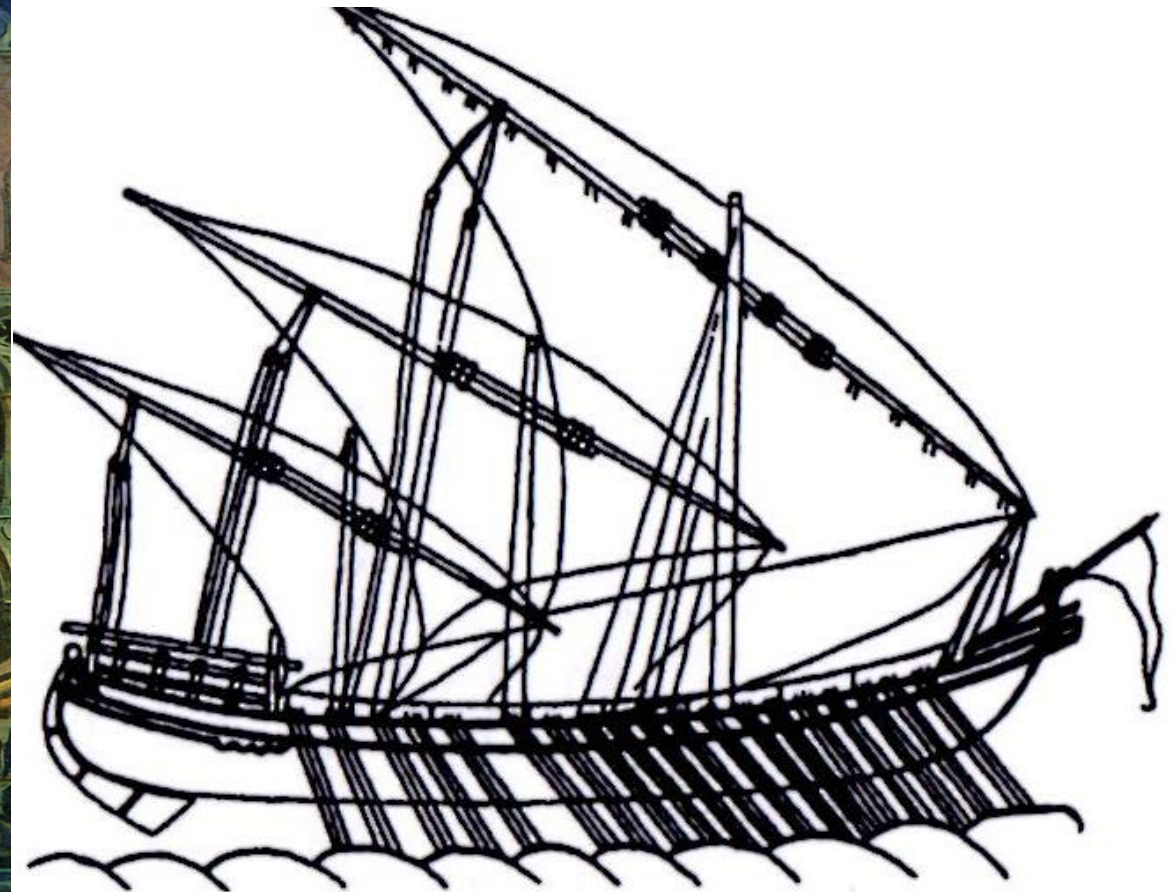
# 技術の改革

## ムーダ

- ・ガレー船は国有で、船団長と目的地は国が決め、積荷は商人の入札で決めた。

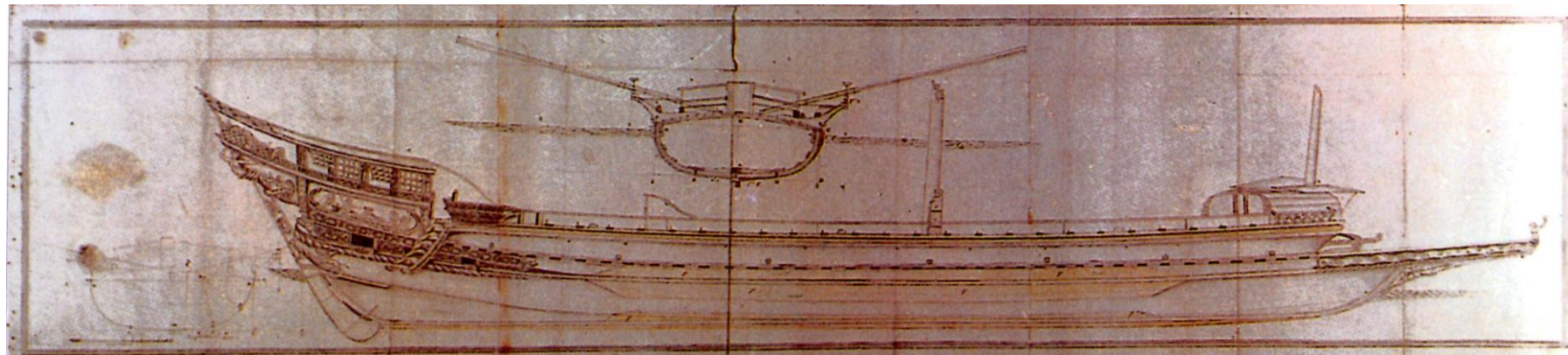
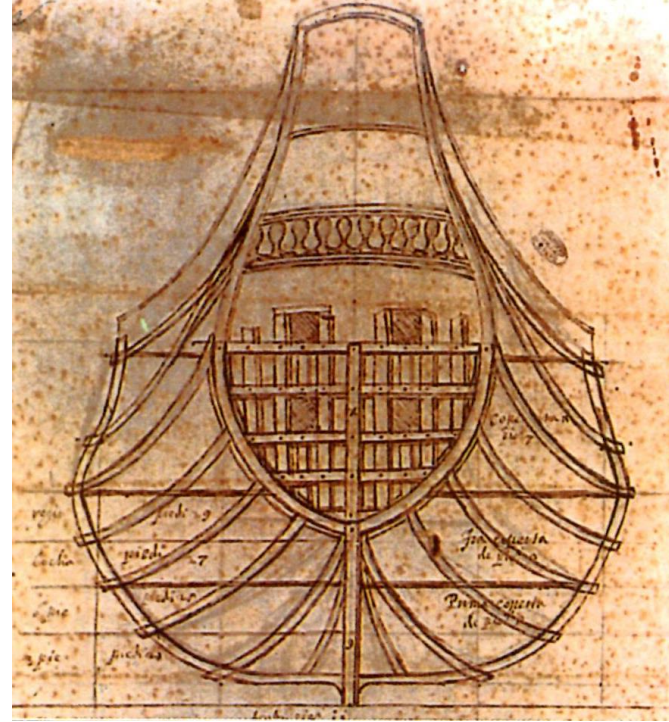
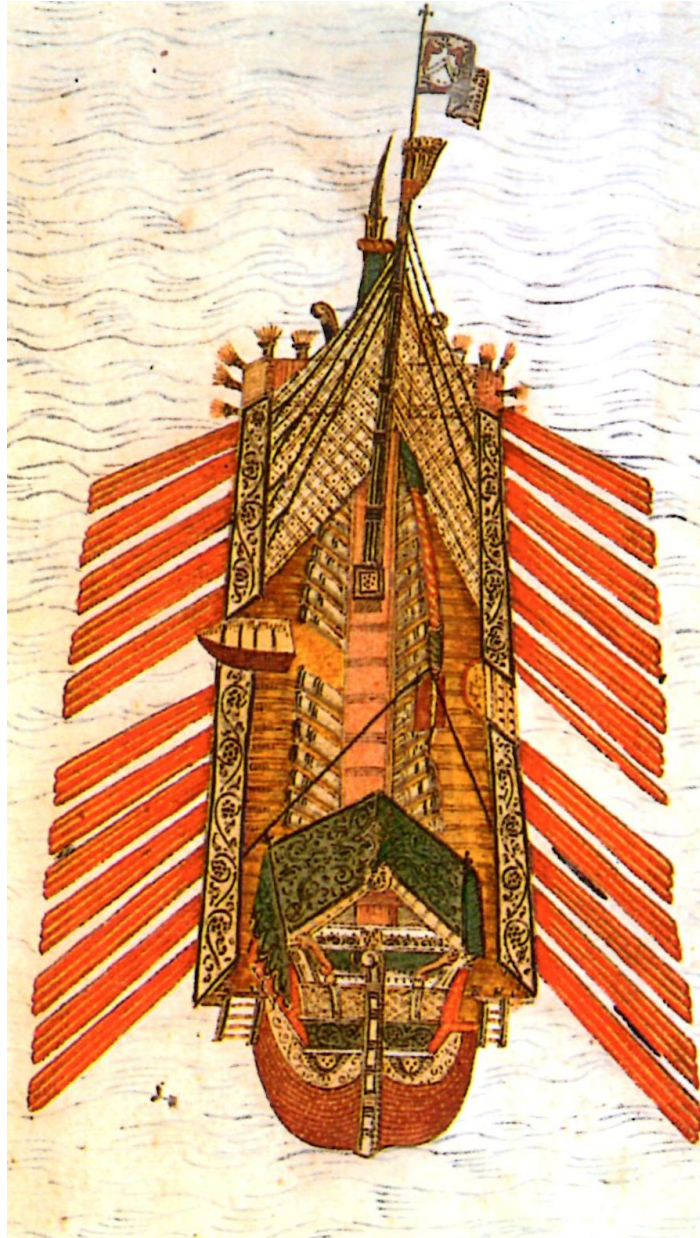


ガレー船（ビレンミ方式）



ガレー船（トリレンミ方式）

# 技術の改革



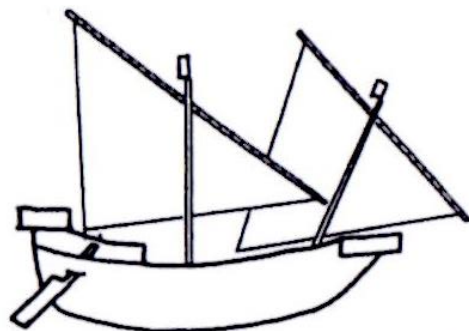
## ムーダ

- ガレー船は片舷の漕ぎ手2人のビレンミ  
3人のトリレンミがあった。
- 櫂は通常27列で、ビレンミで108人必要。  
ヴェネツィアは共和国国民が漕いだ

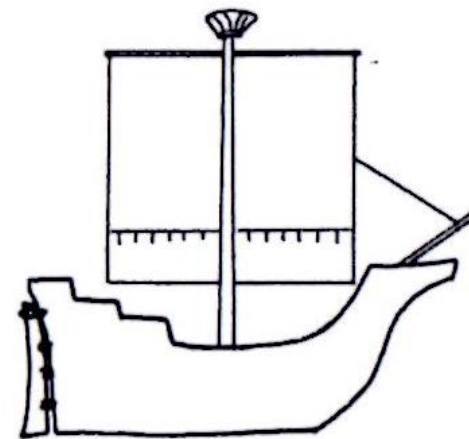
# 技術の改革

## ムーダ

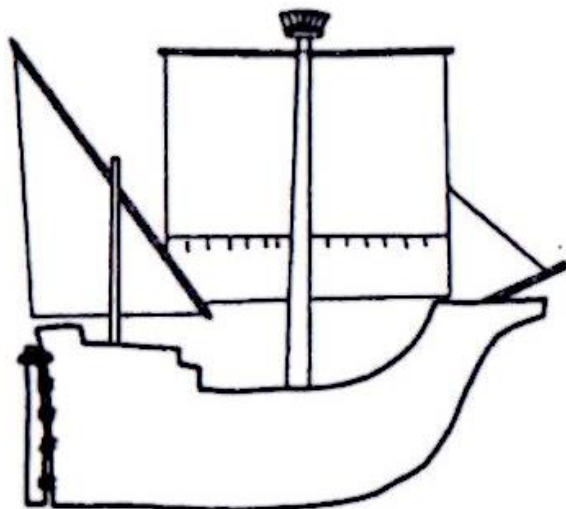
- ・ 不定期航路には帆船が活躍した



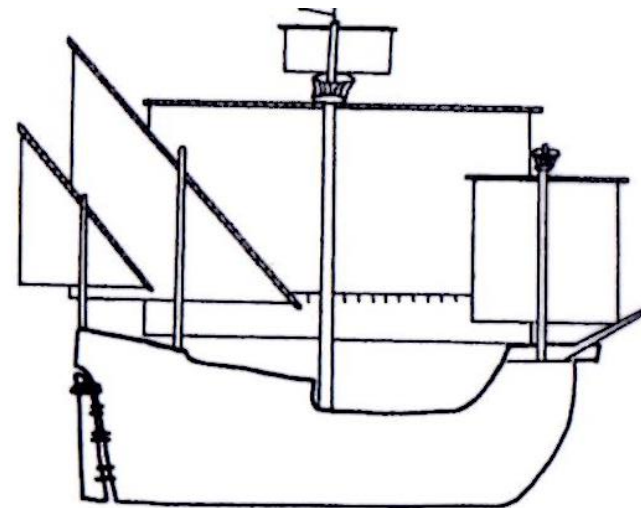
二本mast 三角帆の帆船



コッカ 一本mast



コッカ 二本mast



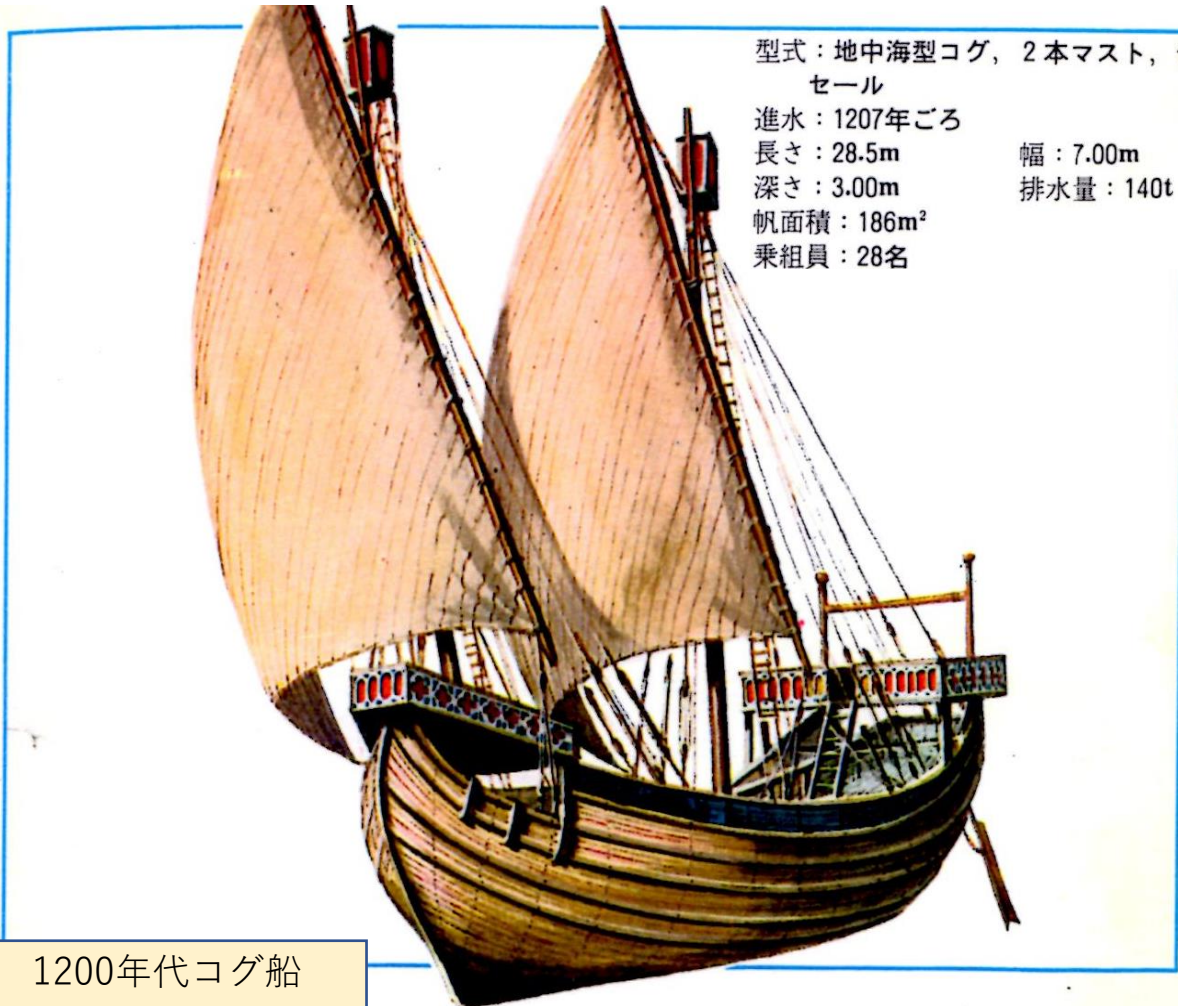
三角帆と四角帆を組み合わせた帆船



# 技術の改革

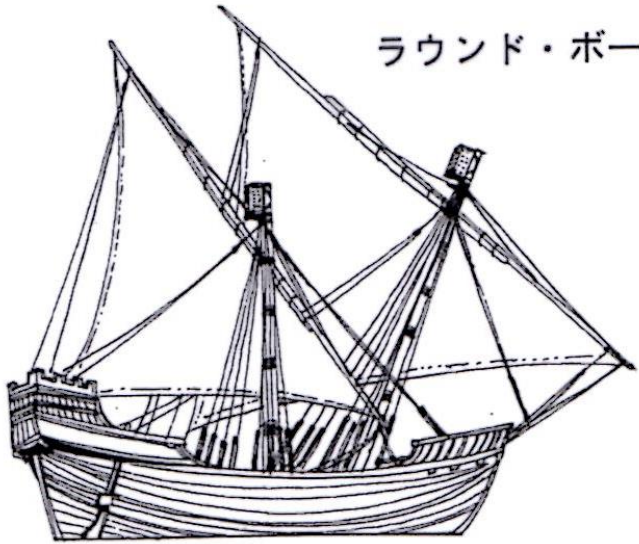
- 1300年代 北欧と地中海の造船技術合成が始まり、船尾船体中心に舵取装置導入し大型化が図られた
- マストが2本から4本になり、船首楼を設け居住区を確保。羅針盤と航海図導入し冬季航海も可能に

## コグ船



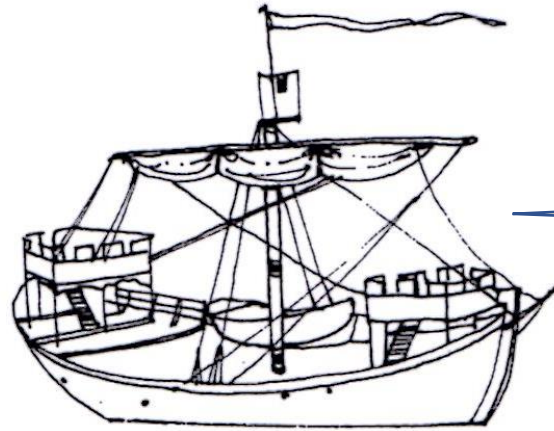
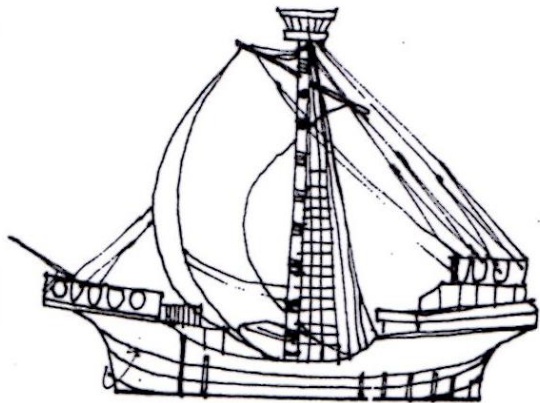
# 技術の改革

ラウンド・ボート

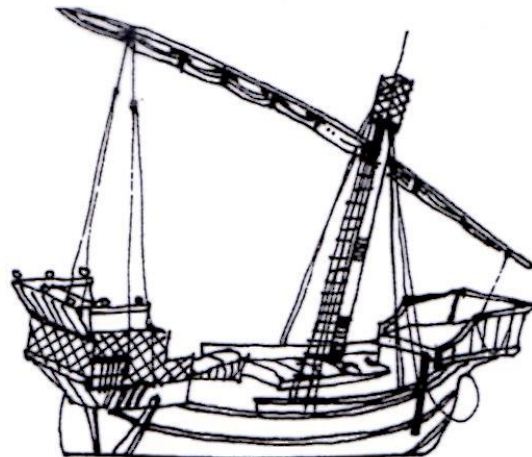


A 図 ベネチア・コグ船 13世紀

F 図 ベネチア・コグ船 15世紀  
馬輸送船として改造したもの



E 図 ベネチア・コグ船 15世紀



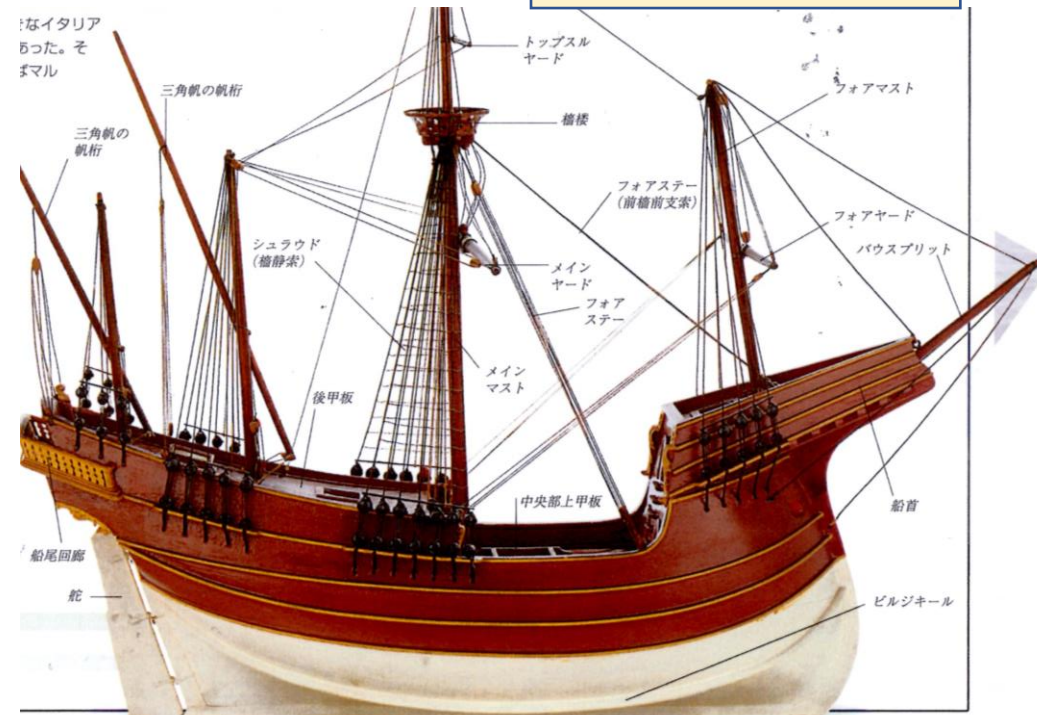
G 図 ベネチア・コグ船 15世紀  
ラテン・セールがついている

## コグ船

・ 聖地巡礼船として帆船が用いられた

巡礼船の図

海洋博物館にある模型



# 技術の改革

## コグ船

- ・ 聖地巡礼はヴェネツィアの国家事業だった。
- ・ 巡礼には帆船が用いられ、エルサレムへの渡航は往路2か月、復路2か月だった



# 技術の改革

## 金融

- ・リアルト橋周辺は商取引の中心地だった
- ・聖ジャコモ教会軒下は銀行発祥の地。複式簿記はヴェネツィアが始めた。アラビア数字はピサ経由で伝わった



リアルト橋 向こうに ドイツ商館



聖ジャコモ教会

# 技術の改革

- ・ 4～5人の銀行家が机の上に帳簿を乗せて待つ。商談がまとまった商人は誰々の口座にこの金額を移してくれと依頼すると、帳簿に記載するだけ。
- ・ 書く銀行～バンコ・ディ・スクリッタと称した。

## 銀行



銀行家



昔の聖ジャコモ教会回廊



現在の聖ジャコモ教会